















みやぎ生活協同組合

CSR REPORT

Corporate Social ResponsibilityReport 2018
2017年度社会・事業・環境活動についての報告書

COOP
MIYAGI





CONTENTS

01 ご挨拶
02 みやぎ生協とは
03 コープ東北とは

04 〈東日本大震災〉
協同の力で 希望の明日へ
震災復興と社会貢献
06 古今東北
07 古今東北商品紹介
08 店舗事業での支援
09 共同購入での支援
10 コープ東北保険センターの支援
11 学校部・㈱宮城県学校用品協会の支援
被災者支援事業への協賛
地域社会の一員として
13 3.11東日本大震災を忘れない

第1章 食品の安全・安心の取り組み
14 商品の安全対策室
15 商品検査センター
16 めぐみ野とは
17 めぐみ野商品
18 めぐみ野の普及と学習
19 めぐみ野のつながり

第2章 メンバー活動
20 メンバー活動
22 食育・子育て支援
23 こ～ぷくらしの助け合いの会
平和について考える活動







【みやぎ生協のめざすもの】

わたしたちは、協同の力で、人間らしいくらしを創造し、平和で持続可能な社会を実現します。

協同組合の定義・価値

1995年9月に開催された国際協同組合同盟（ICA）100周年記念大会で採択した21世紀に向けた世界の協同組合の活動指針を示す協同組合原則。

◎定義

協同組合は、共同で所有し民主的に管理する事業体を通じ、共通の経済的・社会的・文化的ニーズと願いを満たすために自発的に手を結んだ人々の自治的な組織である。

◎価値

協同組合は、自助、自己責任、民主主義、平等、公正、そして連帯の価値を基礎とする。それぞれの創設者の伝統を受け継ぎ、協同組合の組合員は、正直、公開、社会的責任、そして他人への配慮という倫理的価値を信条とする。

第3章 社会貢献活動

24 くらしと家計の相談室
25 コープフードバンク
26 地域で活動する団体への支援
27 行政・他団体との協力
募金活動・災害支援
国際社会への支援

第4章 事業活動

28 店舗
29 共同購入
30 インターネット事業、サービス事業
31 CO・OP共済
こーぷ福祉会
32 学校部・㈱宮城県学校用品協会
33 コンプライアンスの徹底
広報活動

第5章 環境活動

34 環境理念、環境方針
35 低炭素社会の構築に向けて
再生可能エネルギーの普及拡大
36 廃棄物の削減・再資源化
37 メンバーの環境活動
38 商品事業における環境配慮
環境マネジメント
39 環境監査結果報告
40 みやぎ生協の環境活動









みやぎ生活協同組合　理事長

宮本　弘

未曽有の被害をもたらした東日本大震災から7年が経過しました。この間ご支援頂いた、生産者、メンバー、企業・機関・団体の皆様へ深く感謝申し上げます。皆様のご支援により昨年度も復興支援を継続することができました。活動回数や参加者は減少してきましたが、今後も被災者支援、コミュニティ支援を継続・発展させるほか、震災を教訓とした「防災・減災」の普及に努めて参ります。

2017年度は、仙台市中心部に都市型の錦町店を開店させるとともに、2店舗目のコンビニエンス店舗となるファミリーマート＋COOP鶴ヶ谷店もオープンすることができました。また、被災地の買い物困難地域の解消をめざして移動販売「せいきょう便」の小型車を導入するとともに、巡回箇所の拡大もすすめました。

みやぎ生協は、原発事故の惨事を繰り返さないために、東北地方において再生可能エネルギー事業へ積極的に出資参画をしています。2017年度は電気小売り事業に参入し、再生可能エネルギーの割合が高い家庭用電気「COCOENE」の供給・販売を開始しました。

また一方では、富谷市などと協力して、太陽光発電と水素活用を組み合わせたエネルギー供給の実証実験も始めました。引き続き低炭素社会の構築に向けて努力を続けます。

地域のくらしをサポートするための生活相談・家計再生支援貸付事業は、社会福祉協議会など各種相談窓口との連携を進めました。また、コープ・フードバンクの活動も更に広がり、食品提供企業・団体及び、食品提供を希望する団体・施設数ともに前年より増えて、サポートの輪が広がっています。さらに、子育て支援活動を強め、県内に誕生する赤ちゃんのご家庭をお祝いする「すくすくばこ」や、生協の子育て支援プログラム「ココイククラブ」も昨年11月から開始しました。今後もメンバーのくらしを守り、地域社会からの信頼に応えられるよう、社会・事業・環境活動を推進してまいります。

最後に、この「2018年度CSR報告書」は、2017年度にみやぎ生協が取り組んだ社会的責任を負うべき課題や、東日本大震災の復興支援に関する取り組みについてまとめています。

是非ご一読頂き、みやぎ生協の活動へのご支援・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

みやぎ生協とは

生活協同組合とは

協同組合は、メンバー（組合員）の共通の願いやニーズを満たすためのメンバーの助け合い（相互扶助）の組織です。19世紀の半ば、イギリスの労働者が自分たちのくらしを守るために作った「ロッチデール公正先駆者組合」が協同組合の始まり。現在、日本では2,100万人を超える方が生協の組合員です。

民主的な運営

メンバーの中から選出された総代による「総代会」で、毎年の方針などが決定されます。日常的には総代会で選出された理事（会）や、その付託を受けた常勤理事会が、総代会の決定に基づき事業を執行します。また、監事が理事（会）の業務執行を監査するなど、生協の民主的な運営を確かなものにするために多様な仕組みを設けています。

1982年に創立

1982年、宮城県学校生協（1952年設立）と宮城県民生協（1970年設立）が合併して現在のみやぎ生協が誕生しました。当時は大型生協同士の合併ということで全国的にも注目されました。



2生協の合併調印式

2017年度決算概要

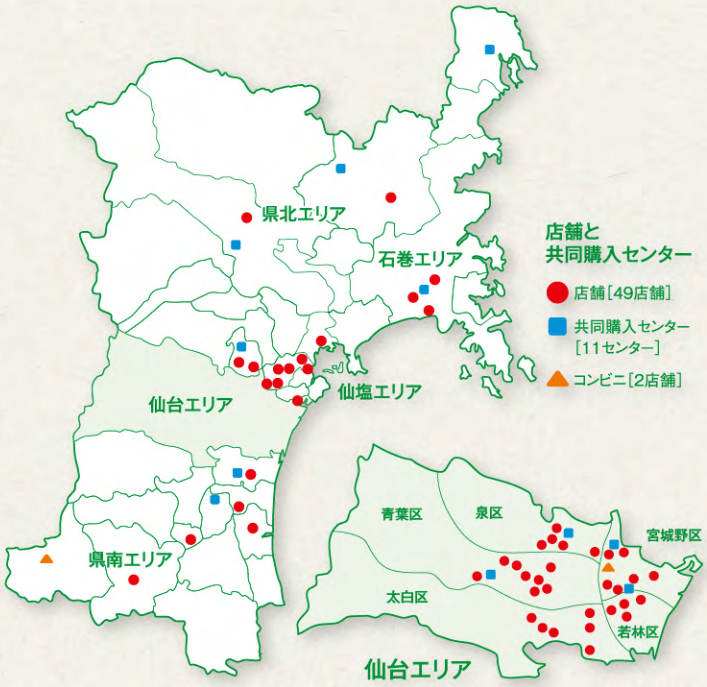
2017年度の供給高は、競合店の出店などで店舗での供給高不足で前年度は上回りましたが予算を達成できませんでした。結果経営剰余は5.6億円、当期剰余金は1.6億円でした。一方出出資金は前年度末より37.6億円増え、315億73百万円になりました。また、処分剰余金は5.7億円となりましたので出資配当を行います。

加入率は全国一

みやぎ生協への加入メンバー数は、73万人を超えました。宮城県内の世帯数比で約75%となっています。

メンバー数（組合員）	73万7,567人
はん数	4万3,888はん
はんメンバー数	13万3,395人

（2018年3月20日現在）



供給高（売上高）

1,037億98百万円

前年比100.4%／店舗713億円、共同購入282億円、サービス14億円、エネルギー24億円、生産部2億円

出資金（資本金）

315億73百万円

職員数

6,945人

レギュラー職員1,036人、エリア職員248人、嘱託職員400人、パートナー職員3,884人、アルバイター職員1,377人
※関連団体への出向者含む

主な事業

生鮮食品、食品、日用雑貨、衣料品などの供給事業、
サービス事業、受託共済事業、
生活相談・家計再生支援貸付事業

店舗49店舗 共同購入11センター
コンビニ2店舗

生産部 ミートセンター、フィッシュセンター、豆腐揚げ工場

サービス・保障事業
サービスセンター、住まいのセンター、プリエ案内センター、共済センター

エネルギー事業部（灯油・ガス・電気）

子会社
（株）宮城県学校用品協会、（株）コープトラベル東北、
（株）コープ総合サービス、（株）コープエステート、（株）スクラムファイブ、
（株）コープストア、（株）東北協同事業開発、（株）コープコンビニエンス

主な加盟団体
日本生活協同組合連合会、宮城県生活協同組合連合会、
生活協同組合連合会コープ東北サンネット事業連合

◆みやぎ生協のHPはこちら・・・・・・・・・・http://www.miyagi.coop/

コープ東北とは——

東北6県の生協との連帯

コープ東北サンネット事業連合

事業活動と取り組み

コープ東北は、東北の生協が商品仕入れを統一化、共同で行うことにより、厳しい競争環境の中でも、それぞれの地域で事業経営力の強化を図ることを主な目的としています。現在、店舗事業、共同購入事業、食品の安全、物流・システムの分野で統一・共同が進んでいます。



1995年2月23日の創立総会の様子

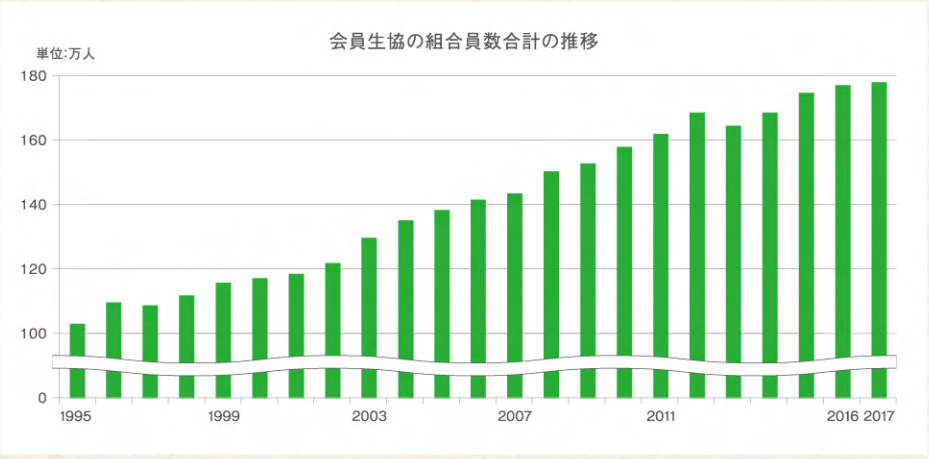
設立から今日まで

1990年6月、いわて生協・生協共立社・みやぎ生協が、今後の事業連帯のあり方について話し合いを開始し、1995年5月、コープ東北サンネット事業連合を設立しました。その後、複数の生協が加盟し、会員数は6県9生協に広がりました。東北6県の生協が連帯することにより、各会員生協の収益改善に大きく貢献しています。



2017年度決算概要

加盟生協合計の供給高は2,417億円。合計の組合員数は178万人となっています。また、コープ東北が取り扱う商品の供給高は1,109億円（前年比102.6%）になりました。



◆コープ東北のHPはこちら・・・・・・・・・・ http://www.tohoku.coop/

〈東日本大震災〉

CSR Report Corporate Social Responsibility Report 2018

協同の力で 希望の明日へ

震災復興と社会貢献



災害公営住宅と地域の住民をつなぐふれあい喫茶



石巻VCサポーター交流会の様子

被災された方々を支えるボランティアセンター

みやぎ生協では2011年5月から被災された方々に寄り添う活動に取り組んでいます。これまでの活動は3,800回を超え、のべ2万8,000人を超えるメンバーがボランティアで活動しました。

ふれあい喫茶

仮設住宅や災害公営住宅の集会所、店舗など県内14ヶ所（2018年3月現在）で、一緒にお茶とおしゃべりを楽しむ活動に継続して取り組み、コミュニティづくりにつなげています。



仮設住宅でのふれあい喫茶

とうほくてしごとカタログ FUCCOの発行

生きがいやコミュニティづくり、生活再建のため手作り品を製作する方々を紹介し購入を呼びかけるカタログを「とうほくてしごとカタログFUCCO」とリニューアルし、NPO法人応援のしっぽと協同で2回発行しました。委託販売のしくみもつくり、販売機会を広げました。



FUCCO Vol.2

サポーターへの支援

ふれあい喫茶などで活動するサポーターの交流会を4回開催し88人が参加しました。今年度の活動をふりかえりながら、次年度の活動のすすめ方を確認する機会となりました。

◆復興支援に関する詳細はこちらからご覧になれます。
http://www.miyagi.coop/support/shien/











1.福島のぶどう畑で、木を1本1本洗浄していることなどを学習　2.被災者支援落語公演　3.3.11を忘れない取り組みで、利府店では委託での手作り商品販売を実施
4.被災地訪問の様子を広くお知らせ（古川南店）　5.展示を工夫し、わかりやすくローリングストックを紹介（愛子店）

県内の被災地訪問・福島視察

宮城の被災地域を20回訪問し727人が参加しました。当時の様子や現状を知り、支援継続の必要性や震災を伝えること、災害への備えを確認する機会となりました。また、福島の沿岸部や産地の現状を学ぶ企画を2回開催し48人が参加しました。視察報告を3.11を忘れない取り組みなどで発信しました。



石巻市旧大川小学校訪問の様子



福島の帰還困難区域では住宅の前までバリケードがありました

被災者支援落語公演

気仙沼と石巻の4会場で開催し、200人が参加しました。気仙沼では災害公営住宅にお住まいの方なども参加され、普段なかなか聞けない生の落語を、本格的な寄席風のステージも含めて楽しみました。



支援と備えを見直そう～3.11を忘れない取り組み

手作り商品販売や、ローリングストックの紹介・ストック品を活用したメニューの試食、防災グッズや被災地の変化を示した写真展示、震災語り部のお話や行政出前講座を聴く、被災者支援活動への募金呼びかけなど、全てのこ～ぷ委員会で工夫を凝らし、震災を忘れない想いを伝える企画に取り組みました。

行政書士無料相談会

宮城県行政書士会と連携し、定期開催2店舗のほか、ふれあい喫茶会場での行政書士無料相談会を計4回開催しました。のべ36人が相談に訪れ、買い物などのついでに立ち寄って気軽に相談できる場になりました。





1


2



3


4

地域産業・生産者への復興支援

古今東北

コンセプト

東北の生協として、震災復興そして地域振興の役割をはたすために「古今東北」ブランドを立ち上げました。東北の食の「これまで」と「これから」を紹介するブランドです。古今東北がお届けするのは、東北六県の彼方此方から集めた選りすぐりの食材や加工品です。地元で愛されてきた伝統的な食文化を再発見し、多彩な食文化が出会うことで生まれる新たな食の楽しみを提案します。東北地方の魅力を日本全国に向けて、いずれは世界の国々にむけて発信していきます。ロゴマークは、安心・安全で優れた商品であることを保証する「太鼓判」をモチーフにしました。

古今東北
COCON TOHOKU

(株)東北協同事業開発

みやぎ生協の子会社として、「食のみやぎ復興ネットワーク」の思いと事業を継承し、東北の産業振興と地場産品の販路拡大のために2015年4月に設立しました。東北地方の資源を活用した古今東北ブランド商品の開発と全国への発信を通じて、豊かな地域作りと継続的な被災地振興へ繋げます。2015年11月に38アイテムでスタートした古今東北ブランド商品ですが2018年度末には、約200アイテムを目指します。

他社・他生協での販売拡大

2017年度は、全国の生協の取り扱いも10生協以上に拡大し、「冷凍商品」の取り扱いも可能になりました。福島や沖縄のスーパー、「ルートイン」「一ノ坊」などのホテルでの取り扱いも開始されました。気仙沼の「海の市」には「古今東北」専用売り場ができました。「楽天市場」でのインターネット販売も好評です。

催事販売

「古今東北」の認知度を上げるために、2017年度も、多くの場所で催事展開を行いました。「仙台駅」「仙台空港」「コープみらいフェスタ」などです。中でも仙台駅となりのビル「アエル」での催事が好評で、毎月4日間の定期開催が定着しました。



アエル催事販売

1.海の市「古今東北」売り場　2.古今東北試食会　3.趙さんの味のみなさん　4.軽米町のみなさん

商品紹介

古今東北商品は現在約150アイテムになりました。東北の震災復興と地域振興に賛同する人々の思い、そして時をこえて親しまれる美味しさを伝えています。食のみやぎネットワークの取り組みから生まれた商品、被災した産地の復興を応援する商品、東北産食材のおいしさを発信する商品の開発と販売を通じて、東北地方を応援しています。

福島県南相馬産なたね使用 菜の花オイルのドレッシング





震災後に、人がいなくなり荒れ地となってしまった農地を復活させる為に挑戦を続けている南相馬市の小高区では、農業再開の希望をこめて菜の花の栽培に取り組んでいます。そんな菜の花から取れた「なたね油」を使用した「和風」「黒酢」「ねぎ塩」の3つの風味のドレッシングです。

福島県南相馬産「天のつぶ」使用 ふっくらパックごはん





復興の継続を願い、原料は被災地である福島県南相馬産「天のつぶ」を使用し、玄米の保管から精米、パックごはんの製造までを、同じく被災地の宮城県の同一工場で一貫して行いました。精米時の熱でお米の旨さが落ちない様に低温管理のもとで、鮮度と美味しさを保ったお米をふっくら炊きあげました。

気仙沼大島産ゆず果汁使用 かおるゆず味噌





東日本大震災で大きな被害を受けた宮城県気仙沼市大島産のゆず果汁100%使用したゆず味噌です。味噌には登米産の特別栽培大豆と、特別栽培米を使い、醸造過程から手間暇をかけて作った「登穀みそ」を使用しています。登穀みそは大豆の皮を完全脱皮した雑味が少なく滑らかな舌触りが特徴のみそです。

宮古の塩使用 スッキリ坊っちゃん塩石鹸





「坊っちゃん石鹸」は宮城県で昔から作られていた無添加の石鹸です。原料で使う天然の牛脂やヤシ油などは、全て高品質の食用を原料として作っているので赤ちゃんでも安心して使えます。今回は被災地で取れた純度の高い「宮古の塩」を使って、きめ細やかな泡立ちのスッキリした塩石鹸になりました。

宮城学院女子大との取組

宮城学院女子大学現代ビジネス学部から、「古今東北」ブランドの学習を依頼され、年間10回のゼミを行いました。女子大生から東北の原料を使った商品提案があり、「古今東北」商品として共同開発を行い、18年春に発売することになりました。



宮城学院女子大・宮原ゼミのみなさんと

食のみやぎ復興ネットワークの古今東北への継承

東日本大震災後に宮城県内の農業・漁業・食品関係者が、地域復興のために2011年に「食のみやぎ復興ネットワーク」が結成されました。その取り組みを継続的なものにして東北全体の復興を目指すために「古今東北」ブランドを立ち上げました。

つくる 食べる
ずっと
つながる
食のみやぎ復興ネットワーク

事業を通した復興支援









1.小型車での営業　2.利用者との会話　3.小型車　4.店内で買物（ふれあい便）

店舗事業での支援

移動店舗せいきょう便（小型車の導入）

「移動店舗せいきょう便」は、買い物に困っている方への商品供給を目的に、2011年から被災した地域で運行しています。蛇田店と加賀野店から計4台（大型3台、小型1台）で、復興住宅や一般住宅を巡回しています。2017年は、軽自動車を導入して、道路が狭く、今まで営業できなかった場所での運行も開始しました。今後は、県内各地の買い物に困っている地域への拡大を計画しています。

東北元気価格

東北の4生協（いわて生協、生協共立社、みやぎ生協、コープふくしま）のメンバーのくらしを継続的にサポートするために、2013年度よりスタートしました。2017年度も通常価格より10～30%値下げした商品を加工肉、デイリー、加工食品、生活関連の各コーナーで約3,000品目展開しました。2018年度は、品目数を減らしてより低価格を実現します。

買い物代行サービス（こーぷふれあい便）

「コープふれあい便」は週2回、店舗の商品を自宅までお届けする買い物代行サービスです。高齢者や身体の不自由な方などを対象としています。震災後は被災地域の買い物に困っているメンバーへの対応も行っています。子育て中や妊婦の方、高齢者だけの世帯など、商品と利便性の良さをお知らせして、今後も利用の拡大をすすめていきます。

また、高齢者の「安否確認」で県内各市町村との協定に基づき、「高齢者見守り」も行っています。「こーぷふれあい便」の対象店舗は、17店舗になっています。

「ふれあい便」サービス実施店舗

西多賀店、黒松店、桜ヶ丘店、富沢店、幸町店、国見ヶ丘店、柳生店、明石台店、亘理店、塩釜杉の入店、高森店、愛子店、名取西店、八木山店、蛇田店、鶴ヶ谷店、荒井店

※配達エリアはお店によって異なります。

◆「ふれあい便」の配達エリアに関する詳細はこちらからご覧になれます。
http://www.miyagi.coop/support/fureaibin/









5.応援ボックス猪俣さん夫婦　6.角田丸森牛乳の生産者のみなさん　7.6月に開所した仙台中央センター　8.共同購入ステーション

共同購入での支援

がんばろうふくしま！農産品応援ボックス

2011年6月からスタートした「がんばろう ふくしま！農産品応援ボックス」「果物応援ボックス」は、2017年度までの7年間累計で26万点の利用を頂きました。また産地から「組合員さんへ感謝の気持ちを形にしたい」との提案で7月1週に500円（通常価格650円）の感謝価格でご案内し、1週間で5,160点（通常週の7倍）と大きな利用がありました。8年目を迎えるにあたり、ボックスへのアイテム数やセット内容を変更していくなど、新たな取り組みを産地側と協議しながらすすめております。今後も継続して取り組んでまいります。



農産品応援ボックス

共同購入ステーション

メンバーが共同購入の注文をした商品を直接センターや店舗へ受け取りに来る受取班として、手数料無料でご利用いただける共同購入ステーションは2018年2月現在、石巻生協文化会館アイトピア30名、共同購入石巻センター24名、蛇田店83名、渡波店41名、共同購入気仙沼センター134名の5箇所で312名のメンバーにご登録をいただいております。ステーションご利用のメンバーは、職員との会話やご近所さんとのふれあいを楽しみに足を運んでくださっています。

復興支援サービス

2011年3月11日の東日本大震災で被災した方々を対象に、個人宅配の基本手数料を通常240円（本体）のところ96円（本体）で利用できる仕組みとした『復興支援サービス』は2017年度も、2,705名の新たな申し込みを受け付け、15,466名にご利用いただいております。復興支援サービスの値引き終了期間を『復興が実現するまで』とした基本手数料値引きサービスの期間延長を多くのメンバーに喜んでいただいております。今後も地域にお役立ちできる支援を継続し、協同組合としての役割を一層発揮していきます。



1



2



3

コープ東北保険センター

保険証券の「ベルマーク」を集めて被災した学校を支援

コープ東北保険センターの職員が自動車保険・火災保険の契約手続きをしながら、証券に付いている「ベルマーク」を集めて被災した学校に届けました。今年は気仙沼市立小原木小学校と唐桑小学校にお届けしました。


小原木小学校への寄贈


唐桑小学校への寄贈

学校部・㈱宮城県学校用品協会

みやぎの子どもたちに夢と希望を!

学校部では、提携住宅メーカー（ミサワホーム株式会社）の協力で南極観測隊スタッフによる「南極クラス」を県内の学校33校で開催しました。"未知の世界"である南極での活動を伝えたり、南極の氷の音を聴いたりして、未来を担う子どもたちに夢と希望を届けました。


南極観測隊による南極クラス

他県の学校用品会社や学校生協からの図書館寄贈

福岡県、徳島県、福井県、富山県、兵庫県、石川県、三重県、群馬県の各教育用品会社や学校生協から、宮城県の学校12校へ図書館図書の寄贈支援をいただきました。宮城県学校用品協会が代理として、各学校へ図書館図書を届け、贈呈式を行いました。

1.福井県教育用品株式会社から石巻市立須江小学校への図書寄贈
2.徳島県から石巻市立中里小学校への寄贈図書　3.東北・みやぎ復興マラソンに協賛（みやぎ生協ブース）

みやぎ生協 東日本大震災
復興応援活動支援募金プロジェクト 学校寄贈

全国の生協の仲間に働きかけ、一昨年1年間を通じて東日本大震災復興応援活動支援金2,705万円のうち800万円を「次の災害に備えて学校での防災用品準備助成費用」として、各地区の校長会を通じて防災用品を贈呈いたしました。



仙台市の中学校全校に寄贈したレスキューボード

子育て支援講演会

こ～ぷ家庭教育センターでは、脳科学者の篠原菊紀先生を迎え、「脳を鍛える親の接し方」という演題で、2017年10月12日（木）に矢本東市民センター、10月13日（金）に楽楽楽ホールで『子育て支援講演会』を開催しました。



篠原菊紀先生の子育て支援講演会

被災者を支える協同の輪

被災者支援事業への協賛

みやぎ生協プレゼンツ 仙台89ers冠試合

2017年11月（ゼビオアリーナ仙台）と2018年1月（カメイアリーナ仙台）で開催された89ersのホームゲーム2試合を「キッズドリームDAY」として協賛し、500人以上のこどもたちと親御さんを招待しました。試合は1勝1敗でしたが、観戦した子供たちは精一杯の声援で楽しい一日になりました。両日ともCOOP商品の先着プレゼント、ミニゲームイベントなどが行われました。みやぎ生協としてもブース出店しCOOP共済の良さをアピールしました。



89ers 藤田さん

ベガルタ仙台「復興支援サッカーキャラバン」

みやぎ生協は、ベガルタ仙台が小学校で開催する授業型「サッカーキャラバン」に協賛し、2017年は40回でのべ3,764人が参加しました。



復興支援ベガルタサッカーキャラバン

地域社会の一員として

行政や大学などと共に

震災から7年、行政や各種団体が主催する「復興支援事業」や「地域の各種イベントなどに資金面で協賛し、復興支援の一翼を担いました。また、復興や被災地の今をテーマにした行政や各種出版物にも寄稿し、復興への取り組みなどを広くお知らせしました。



1


2


3

復興支援活動の広告

被災地訪問や、震災で被害を受けた生産者支援のためのイベントや企画、被災した子どもたちに笑顔を届ける様々な企画の広報を展開しました。

また、みやぎ生協とメンバーが展開してきた様々な支援活動をお知らせするために、そして今後も被災地、被災者への支援を継続する意思を表明するために、昨年に引き続き、3月11日の河北新報に全面広告を掲載しました。2018年も南三陸町の戸倉から見た志津川漁港を撮影しました。漁協周辺の復興はまだ途上であることがわかります。私たちは被災地が本当の復興を遂げるまで今後も様々な支援活動を継続します。



河北新報に掲載した全面広告

防災推進国民大会に出展

2017年11月、仙台で開催された防災推進国民大会2017（ぼうさいこくたい）に日本生協連の協力をいただいて参加し、団体別セッションで家庭での備えを見直すための「ローリングストック」の紹介、展示ブースでは「とうほくてしごとカタログ（FUCCO）」の展示と被災地手作り商品の販売に取り組み、たくさんの方々にご利用いただきました。

ＦＭ仙台サバ・メシ（サバイバル・メシ）企画に協賛

2018年1月14日にDatefm主催の「親子で作るサバ・メシワークショップ」がみやぎ生協文化会館ウィズで行われました。16組32名の親子が災害時の備えや2種類のサバ・メシ料理を体験したほか、みやぎ生協の「東日本大震災学習・資料室」を見学するなど、生協の施設を活用して親子で震災のことや防災・減災について考える機会になりました。

1.東北・みやぎ復興マラソンに協賛（古今東北ブース）　2.防災国体講師の砂金亜紀子理事
3.親子で作るサバ・メシ ワークショップ

3.11東日本大震災を忘れない

東日本大震災を風化させず、社会インフラとしての役割を果たすために

東日本大震災 学習・資料室

「東日本大震災を忘れない、風化させない、伝え続ける」をテーマに、2013年3月5日、文化会館ウィズ内にオープンしました。民間でこのような施設は他になく、2017年までの5年間の入場者数は約7,000人に達しました。2016年6月には、震災当時の写真の掲示を増やし、震災復興のシンボルである「古今東北」ブランド商品の展示を作るなど、大きくリニューアルしました。どなたでもご覧頂けますので、是非一度ご来場下さい。



学習・資料室外観



学習・資料室内の様子



学習・資料室内の様子

「被災地は今」の情報発信

「くらしと帰郷」「住宅問題」「被災自治体職員の心のケア」「ボランティア」「被災した子どもたちの現状」など、様々な角度から被災地を取材して、被災地では今何が問題なのかを全国の生協に発信しています。震災から7年が経過し、震災に関する報道は目に見えて少なくなっています。被災地の現実を風化させないためにも今後も発信し続けます。

東日本大震災を忘れないつどい

東日本大震災発災後、7年を経過した被災者・被災地の現状や課題を認識するとともに、みやぎ生協が行っている被災者支援、被災地復興支援の取り組みを継続することを確認するために、毎年3月11日に開催しています。東日本大震災でお亡くなり（行方不明）になられた生協職員をはじめとする方々を追悼し、これからも震災を忘れず、風化させず、大規模自然災害発生時の生協の役割を継承し続けます。



理事長



高森店 荒 栄一店長



仙台北センター 佐々木 隆介センター長



食品の安全・安心の取り組み



食品の安全を確保する仕組み

みやぎ生協 食品の安全・安心に関する基本方針

みやぎ生協は、メンバー（組合員）が安心して商品を利用できる生協づくりを進めます。取引先および生産者と共同し、取り扱う食品の安全管理のレベルを向上させ、食に関するメンバーの願いの実現を目指します。
そのために、以下の基本方針に基づく取り組みを進めます。

1．取引先、生産者、メンバーとコミュニケーションをはかり、生産・仕入れ・製造・加工・メンバーへの供給の各過程を通して、食品の安全性を高めます。
（1）食品の安全マネジメントシステムで適切な課題・目標を設定して実行し、その進捗状況を検証し、定期的に見直し、継続的な改善ができる仕組みをより確かなものにし、運用します。
（2）重大商品事故の兆候を見逃さない仕組みを向上させるとともに、万が一重大商品事故が発生したときの被害を最小にするため、対応方針・手順を明確にし、訓練します。
（3）安全な食品をお届けするために必要な職員の力量を高めるために、教育・啓発を計画的に行います。
2．食品の安全や衛生に関する法令・規制を順守するとともに、必要に応じてそれらに基づく内部ルールを制定し管理を進めます。
3．メンバーと産直生産者の交流を活発にし、「顔とくらしの見える産直」活動の輪を広めます。
4．県内産・国内産食品の取り扱い拡大と食料自給率の向上に寄与する活動を進めます。
5．食に関する学習・体験の活動にメンバーや他団体と協力して取り組み、安心できる食生活の実現に貢献します。この食品の安全に関する基本方針は、生協内外に公表します。

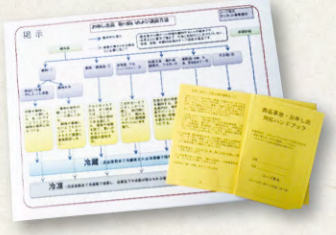
2011年4月22日 みやぎ生活協同組合

商品の安全対策室

重大商品事故の兆候管理システム

重大な事故につながりかねない兆候を見逃していないか、メンバーのお申し出に対する判断や対応に誤りは無いか、事故の原因解明と再発防止策はしっかり行われているかなど、最後まで対応状況を監視しています。

2017年度も、兆候が他の重篤な人体被害や被害拡大などに発展した案件はありませんでした。



「お申し出」に関係するマニュアル

「餃子事件を教訓とする月間」の取り組み

2008年「手作り餃子農薬混入事件」のときに決意したこと・反省したことを風化させないため、毎年2月度に、事件の内容と作り上げてきた食品の安全を確保するためのルールを職員全員が学習・確認をしています。

食品の安全マネジメントシステム

①生協の各部署が、「食品の安全・安心に関する基本方針」に基いた目標と、それを実現するため"教育・実施・検証"の計画を立て、毎月進捗管理をして活動しています。

②内部監査や外部検査の結果もふまえ、取組みの有効性を評価し、目標が達成できない場合には、その原因を明らかにして対策を補強していくことで改善を積み上げています。

2017年度の改善例

①店舗加工品のアレルゲンや産地などの表示間違い件数を、昨年よりも削減しました。

②共同購入では、メンバーからのご意見やお申し出を記録する際の不備件数を昨年よりも削減しました。

③メンバーからの質問やお申し出をいただいてから、生協が回答を作成するまでの期間を、昨年よりもさらに短縮しました。



食の安全・安心のためのマニュアルなど


1.理化学検査①　2.理化学検査②　3.店舗衛生点検
4.微生物検査　5.放射性物質検査

商品検査センター

放射性物質検査

2017年度は480検体の検査を行い、検査結果は全て「検出せず」でした。検査結果は、店頭掲示や共同購入の納品書、ホームページで報告しています。

放射能　摂取量調査の手順

2011年度から日本生協連と協力し実施しています。
2017年度は30世帯のメンバーに協力をいただきました。

測定の結果、全世帯ともに検出はありませんでした。

1.各家庭で食事をもう一食余分に作ります。
2.一食分ずつフリージングバッグに入れ冷凍庫に保管します。
3.各家庭から2日分の食事とアンケート、献立調査票、食事の写真が届きます。
4.食事をミキサーで粉砕し均一に混ぜて、そのうち2リットルを検査試料とします。
5.細かくした検体を専用の容器にできるだけ隙間なく詰めます。
6.検体を詰めた容器を検出器にセットします。1検体の測定時間は約14時間です。
7.パソコン上で操作して、モニターに表示されたデータから、物質の種類と濃度を解析します。

1）微生物検査

累計	総検体数	共同購入配達商品	店舗調理加工商品	店舗一般メーカー商品(テナント含む)	COOP商品・生産部生産品	取扱事前検査など
検体数	10,452	2,386	2,306	2,385	741	2,634

検査結果は、店舗やメーカーの衛生管理向上のために活用しました。

2）残留農薬検査

累計	総検体数	めぐみ野 野菜	めぐみ野米	一般品
検体数	421	372	26	23

検査結果は、産地の栽培計画や管理向上のために活用しました。

3）COOP商品の原材料の確認

項目	遺伝子組み換え	品種判別	産地判別
検査品目数	4	7	3

検査結果から、指定した原材料が適切に使用されていることを確認しました。



コープ東北商品検査センター

◆食品の安全に関する詳細はこちらからご覧いただけます。http://www.miyagi.coop/products/safety/



1



2



3

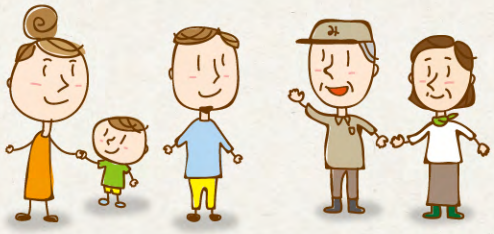


4

顔とくらしの見える産直

「めぐみ野」

今から50年ほど前、メンバーのみなさんや
生産者の方々と始めた「顔とくらしの見える産直」。
それは、生産者と消費者の食に対する思いを直接結ぶことで、
共に幸せを分かち合う「産消直結」への取り組みでした。
そして、さらに未来に向けて新たな一歩を踏み出すために、
私たちはこの取り組みから生まれた商品に
2011年「めぐみ野」という名前をつけました。
ふるさとの豊かな自然が授けてくれる恵み。
生産者の方々のたゆまぬ努力によりもたらされる恵み。
おいしくて安全な食卓に支えられた健やかな毎日という恵み。
そして、作る人と食べる人がお互いを思いやる心の恵み。
恵みに満ちたおいしい幸を、どうぞお召し上がりください。



顔とくらしの見える産直 めぐみ野 3つの基準

①だれ（生産者）がどこ（産地）で作ったかがわかること。
②どのように作ったか（栽培・飼育）がわかること。
③生産者とみやぎ生協のメンバーの交流があること。

事業と運動の基本的な立場

みやぎ生協の「めぐみ野」の事業と運動は、生産者と消費者の共通の願いを実現するために、次のような基本的な立場で提携活動を進めています。

①健全な日本型食生活の確立と食料の安全性を高めます。
②食料自給率の向上をめざし、宮城県と日本の農・畜・水産業を守り、発展させる国民合意の運動をすすめます。
③産消提携活動に積極的に取り組むことを通じて、宮城県と日本の経済と文化の発展、自然環境の保全に寄与します。

1.ねぎ生産者 加藤真之さん　2.ぶり生産者 冨高吉幸さん
3.めぐみ野豚生産者 斉藤理一さん・克敏さん親子　4.いちご生産者 佐藤雅和さん

数字で見る「めぐみ野」

2017年度供給高……63億円

みやぎ生協と「産消提携に関する基本協定書」を締結している団体(「宮城県産消提携推進協議会」)……50団体

「めぐみ野 旬菜市場」設置店舗……43店舗

めぐみ野商品

新商品

■めぐみ野 蔵王育ちの温泉たまご5個入り

宮城県蔵王町宮地区で、風通しの良い開放型鶏舎で飼料用米を食べ元気にそだったにわとりが産んだ「めぐみ野 蔵王育ちのたまご」を使用しています。



めぐみ野 旬菜市場

生産者が規格と価格を決め、自ら価格ラベルを貼り出荷しています。生産者の自信作がそろったわくわくするような、直売所的な売り場です。

今までも…これからも。



みやぎ生協 産直の出発点

1970年、組合員からの「安全でおいしい肉が食べたい」という声を受け、みやぎ生協の前身である宮城県民生協と角田市農協(当時)で、「鶏卵」「豚肉」「鶏肉」の産直を始めたのが出発点です。生産者は安全で安心なものを食べたいという声に応えようと努力を惜しみませんでした。しかし、経営的には厳しかったため、組合員は「生産者の生活が成り立つ価格」での供給を提案しました。お互いの立場、環境を学び理解しあうこと。これが「顔とくらしの見える産直」の原点で、今でも受け継がれています。

「めぐみ野」季節商品

春

今朝どりレタス

取り扱い時期:5~6月いっぱい



気温が上がる前、早朝2~3時ころから収穫し、開店前にお店に届きます。鮮度がよく、柔らかで、玉の大きいレタスです。

宮城県産 今朝どりほや

取り扱い時期:4~8月頃



販売当日の早朝2~5時に水揚げします。生産者の「新鮮なほや本来の味を味わってもらいたい」というこだわりの今朝どりです。

夏

志津川湾産 養殖銀さけ

生での取扱い時期:5~7月頃



南三陸町戸倉地区で生産しています。環境保全の観点から、えさにはEPペレット(固形飼料)を使用しています。EPペレットは水中に沈みにくく、海を汚しにくいのが特徴です。

トマト

取り扱い時期:5月中旬~8月下旬頃



果肉がしっかりとし、甘味と酸味のバランスのとれた「桃太郎系」の品種です。トマトがしっかりと赤くなってから収穫、出荷します。

秋

なし

取り扱い時期:8月下旬~10月下旬



その時期に一番おいしい「幸水」「豊水」「あきづき」「新高」の順に出荷されます。樹上でじっくりと熟度をあげてから収穫、出荷します。宮城県内の一般的な栽培に比べて、農薬・化学肥料の使用量は2/3以下で栽培しています。

りんご

取り扱い時期:8月下旬~10月下旬



その時期に一番おいしい「つがる」「シナノスイート」「シナノゴールド」「ふじ」などが順に出荷されます。

冬

かき

取り扱い時期:11~2月ころ



かきの生育に欠かせない植物プランクトンが豊富に含まれる、南三陸町志津川湾で生産しています。

いちご

取り扱い時期:11~2月ころ



品種は、糖度が高くほどよい酸味が特徴の「とちおとめ」です。いちごが赤く熟してから収穫、出荷します。宮城県内の一般的な栽培に比べて、農薬・化学肥料の使用量は1/2以下で栽培しています。











1.わが家の味噌つくり体験 田植え作業　2.志津川銀さけ見学
3.JAみやぎ仙南 ねぎの収穫体験　4.角田丸森産牛乳 牛舎見学　5.田んぼの学校 稲刈り体験

「めぐみ野」の普及と学習

「めぐみ野」産地見学・交流会

産地見学・体験会は、70回のべ2,209人が参加しました。メンバーとの女性同士のくらしを含めた交流・体験の機会を増やしました。「わが家の味噌作り体験」「めぐみ野」田んぼの学校、バケツ稲コンテストなど、子どもや親子でめぐみ野を体験できる企画を実施し、837人（内644家族）が参加しました。

「めぐみ野」米バケツ稲栽培コンテスト

「めぐみ野」米バケツ稲は、21店舗、644家族に配付しました。10月にはバケツ稲栽培コンテストを実施しました。栽培日誌には日々の観察が書かれ、苗からお米になるまで、そして味わうことまで体験しました。



バケツ稲栽培コンテスト

「めぐみ野」学習会・学習塾

「めぐみ野」学習塾44回を開催し、946人が参加しました。こ～ぷのつどいでの「めぐみ野」の学習は、47回1,229人が参加し「めぐみ野」品の特徴など理解と共感が広がりました。

「めぐみ野」品の普及活動

店頭普及活動を「いいコープの日」に実施し、毎月第一土曜日には、「めぐみ野米」の普及活動を行いました。秋まつりは、全店舗と5エリアで取り組み、各エリアでの「めぐみ野」品の普及活動は、256回2,213人の参加でメンバーにお知らせし、「めぐみ野」品の安全・安心とおいしさをアピールし利用を広げました。



米の普及活動



6


7

6.田んぼの学校 生き物調査①　7.田んぼの学校 生き物調査②

「めぐみ野」のつながり

第36回宮城県めぐみ野交流集会

11月29日（水）、仙台国際センターにて第36回宮城県めぐみ野交流集会が。メンバー・生産者・産消提携団体・お取引様・生協職員、1,231人が参加して開催されました。この集会は「めぐみ野」活動の意義と成果を確認し、産消提携の意義の理解を広げるために、生産者・メンバー・各団体関係者が一同に会する場として毎年開催しています。



交流集会分科会

「めぐみ野」ミニ交流会

生産者とメンバーが直接お話し交流する「めぐみ野」ミニ交流会は10回251人が参加して実施しました。参加者から「生産者と直接話ができて良かった。生産者は私たちのために安全な生産を続けていることが分かった。生産者を応援しようと思った。」との感想がありました。



ミニ交流会

「めぐみ野」牛乳タオル1本運動

「めぐみ野」牛乳の生産者が搾乳する際に使用するタオルを集めて贈呈しています。おかげさまで、1993年～2017年度までに103,892本のタオルを生産者にお渡しすることができました。



タオル贈呈

「めぐみ野」生産者台風21号被害緊急募金

10月22日から23日の宮城県内各地に被害をもたらした大型台風21号により、「めぐみ野」農産物・水産品にも被害が発生し、「めぐみ野」生産者を応援する緊急募金を実施しました。募金は、1,357,844寄せられ、JAみやぎ仙南 丸森産直部会・小粒大豆生産組合・角田いちご部会、宮城県漁協志津川支所戸倉出張所、石巻地域旬菜部会に贈呈しました。ご協力いただいた多くの方々に心から御礼申し上げます。



JAみやぎ仙南贈呈式

第2章

CSR Report Corporate Social Responsibility Report 2018

メンバー活動



1



2

自主的で いきいきとした活動

メンバー活動

楽しくてためになるこ〜ぷ委員会活動

生協のさまざまな取り組みやくらしに関わることを知り、興味・関心のあることを自分たちで企画して『楽しくてためになる』活動をし、2017年度は「めぐみ野」品や「コープ商品」「古今東北」商品について知って、食べて、楽しく活動しました。



対応職員と一緒に♪ハイポーズ!

サークル活動・カルチャー活動

あつまる・つながることに価値観をおいたコミュニティの活動として「サークル活動」「カルチャー活動」を展開しています。「サークル」はくらしや趣味を通してわいわいする活動、「カルチャー」は生協に登録した講師のもとで趣味や文化活動を楽しむ活動です。あわせて約6,600人のメンバーが集会室で活動しています。

みんなの居場所づくり「ふれあいカフェ」

地域に住む誰もが気軽に参加でき、つながりづくり、くらしの情報交換ができる居場所「ふれあいカフェ」は、42会場に広がりました。地域包括支援センターや医療生協、行政、社協、町内会などと連携した開催も多く、自分たちで場づくりの工夫を凝らしながら、地域づくりの一助を担っています。



加賀野店での「ちょこボカフェ」は社協のボランティアも大活躍

◆メンバー活動の詳細はこちらからご覧になれます。
http://www.miyagi.coop/member/

1.こ〜ぷのつどいで店長も一緒においしい笑顔
2.塩釜栄町店サークルカルチャー発表会

フードドライブ

10月～2月までの期間、19店舗44エリアで実施し、計2,195食が集まりました。寄付していただいた食品は、実施した各エリアから支援を必要としている生活困窮支援団体や、こども食堂、地域の福祉施設等14団体へお届けしました。



フードドライブ



「貧困問題から地域支援を学ぶ学習会」の開催

7月15日（土）仙台国際センターにて、湯浅誠さんを講師にお迎えし「地域のチカラで地域を支える～貧困問題の現状から考える地域の支援～」を開催しました。当日は宮城県内で子ども支援に関心のある方や団体を含め127名の参加があり、目に見えにくい問題を理解し、みんなで行動につなげていく学びの機会となりました。

福祉施設出店

34エリアの秋まつりに、のべ55施設の福祉共同作業施設に出店していただきました。福祉施設や施設利用者への理解を広げ、工賃向上の一助とすることができました。

熊本地震の被災者への支援活動

気仙沼市のNPOの活動に協力して、熊本県内の幼稚園へ送る防災頭巾づくりの活動を20以上のエリアのこ～ぷ委員会が主体となって行いました。そのほか、手作りした手提げバッグや、生協くまもとの「こーぷ喫茶」で活用するお菓子を送るなど、熊本地震の被災者を支援する活動を行いました。

5ADAY食育体験ツアー

小学生が食育インストラクターや店の人に話を聞き「買い物ゲーム」や「サラダ作り」で野菜や果物を見て、触って、味わい、野菜と果物を食べる大切さを学習しました。2017年度は県内22の小学校で63回実施し2,025人の児童が参加しました。こ～ぷ委員会が募集する親子開催は、利府店・明石台店・新田東店・高砂駅前店の4カ所で親子33組83人が参加しました。


東長町小お買物ゲーム

たべる・たいせつ料理教室「野菜をおしゃれに楽しむパーティメニュー」

「めぐみ野」米を中心にした日本型食生活の調理実習「たべる・たいせつ料理教室」は「野菜をおしゃれに楽しむパーティーメニュー」をテーマに開催しました。文化会館ウィズをはじめメンバー集会室7ヶ所で実施し、151人が参加しました。


たべる・たいせつ日本型食生活料理教室「ローストビーフは薄く切ります」

メンバー向けの商品学習会

みやぎ生協では、お取引先様の企業などにご協力いただき、メンバーを対象に産地見学や工場・施設見学、生協で扱っている商品の学習会などを実施しています。

2017年度見学会にご協力頂いたお取引先様（順不同・敬称略）

●㈱ナリス化粧品　●キリンビール仙台工場　●一ノ蔵本社蔵　●㈱木の屋石巻水産　●サンスター㈱　●㈱だい久製麺　●雪印メグミルク㈱　●㈱ビックルスコーポレーション宮城ファクトリー　●伊藤ハムデイリー㈱　●㈱マルハニチロリテールサービス　●服部コーヒーフーズ㈱　●ニッカウヰスキー宮城峡蒸留所　●(有)伊豆沼農産　●岩沼洋菜生産組合　●JAあさひな　●JAいしのまき　●JA加美よつば　●JAみどりの　●JAみやぎ仙南　●JAみやぎ登米　●㈱志田金　●大谷果樹組合　●角田丸森産直牛乳生産組合　●和雄と一郎の農場　●㈱石巻青果　●㈱加工連　●㈱カネキ吉田商店　●㈱行場商店　●㈱トライベリーファーム　●㈱パールライス宮城　●㈱ベジランド佐藤　●気仙沼ほてい㈱　●伊達なわたりっこ　●鳴子上原酪農組合　●みちのくミルク㈱　●宮城県漁協志津川支所　●宮城県漁協谷川支所　●森永乳業㈱

2017年度学習会にご協力頂いたお取引先様（順不同・敬称略）

●三菱食品㈱　●小川珈琲㈱　●UCC上島珈琲㈱　●森永製菓㈱　●雪印メグミルク㈱　●㈱明治　●カゴメ㈱　●大塚製薬㈱　●フジッコ㈱　●太子食品工業㈱　●石井食品㈱　●アサヒ飲料㈱　●㈱マルハニチロリテールサービス　●日清オイリオグループ㈱　●㈱ナリス化粧品　●伊那食品工業㈱　●オタフクソース㈱　●ブルドックソース㈱　●キッコーマン食品㈱　●ハウス食品㈱　●エスビー食品㈱　●㈱クラブコスメチックス　●スリーエムジャパン㈱　●マルハニチロ㈱　●ホクト㈱　●㈱マックプランニング　●㈱伊藤園　●はごろもフーズ㈱　●カタギ食品㈱　●白鶴酒造㈱　●サンスター㈱　●㈱クレハ　●イートアンド㈱　●㈱ヤマダフーズ　●キユーピー㈱　●キリンビール㈱　●大塚食品㈱　●㈱日本香堂　●㈱日専連ライフサービス　●東北電力㈱石巻営業所　●味の素ゼネラルフーヅ㈱　●㈱コモ　●協同乳業㈱　●ヤマキ㈱　●㈱タカキベーカリー　●井村屋㈱　●㈱ロッテアイス　●メルシャン㈱　●宮城中央ヤクルト販売㈱　●㈱アイケイ　●成田食品㈱　●片岡物産㈱　●㈱タケイ　●㈱コジット　●ボッカサッポロフード&ビバレッジ㈱　●㈱喜作園　●㈱コーベヤ　●竹本油脂㈱　●養命酒製造㈱　●花王グループマーケティング㈱　●ユニチャーム㈱　●武田コンシューマーヘルスケア㈱　●㈱ドトール　●小岩井乳業㈱　●㈱トキワ　●ミズノ㈱　●オハヨー乳業㈱　●㈱富士フイルムヘルスケアラボラトリー　●宝酒造㈱　●日本水産㈱　●JAあさひな　●JAいしのまき　●JA加美よつば　●JAみどりの　●JAみやぎ仙南　●JAみやぎ登米　●JF大分 上入津支店　●大谷果樹組合　●角田丸森産直牛乳生産組合　●㈱石巻青果　●㈱海祥　●㈱加工連　●㈱カネキ吉田商店　●㈱パールライス宮城　●㈱志田金　●㈱仙台水産　●十三漁業協同組合　●鳴子上原酪農組合　●プリマハム㈱　●宮城県漁港 志津川支所　●森永乳業㈱　●仙都魚類㈱　●(有)伊豆沼農産　●(有)大槻ファーム　●岩沼洋菜生産組合　●気仙沼ほてい㈱　●古川生産者グループ　●三倉産業㈱　●㈱高橋商店　●石巻地域旬菜部会　●森永乳業㈱　●㈱ベジランド佐藤　●トライベリーファーム

◆5ADAY食育体験ツアー開催の様子はこちらからご覧になれます。
http://www.miyagi.coop/member/shokuiku/5aday/





1


2


3

食育・子育て支援

すくすくばこ

宮城県の新生児の誕生をお祝いし健やかな成長を願ってギフトボックスをお届けする取り組みで2017年10月に開始。はこの中には、協賛企業からの育児グッズのプレゼントや、オリジナルアルバムが入っています。はこは、子どもの記念品をしまう思い出箱にもなります。この取り組みは、趣旨に賛同したお取引先に参加していただき、120周年記念事業として河北新報社と共催し、宮城県も後援しています。


共同購入センター職員が申し込みされた方にすくすくばこをお届けしています

ココイククラブ

子育て家族を支援する会員サービスで2017年11月に開始。妊娠中から6歳未満のお子さんを持つメンバーが対象です。共同購入ママ割利用者は自動で会員になります。お子さんが6歳の誕生日を迎えた月末まで、店舗100円割引券の月1回発券や、個配手数料半額、事業を利用することでの特典もあります。またガイドブック、生協提携店で使える割引クーポン、コーすけタオルのプレゼントもあり、希望者には子育情報の配信もあります。



ココイククラブの申し込み受付はみやぎ生協ホームページから

子育てひろば

0歳～未就園児とご家族を対象にほっと一息つくゆとりを持ってもらうことで子育てを楽しいと思ってもらえる場を31会場で提供しました。親子で4,324人の参加があり、1,322人のボランティアスタッフが地域の子育てを見守りました。楽しい企画も実施しました。

COOPママのサポートクッキング

子育てひろばに参加する親子に「食」の楽しさを伝え、「食」に興味を持つきっかけ作りをするコープママのサポートクッキングを27会場で54回実施し、親子974人が参加しました。

1.9月1日に開催された「すくすくばこ」プロジェクトの記者会見。右から河北新報社 一力雅彦社長、宮城県 村井嘉浩知事、みやぎ生協 宮本弘理事長　2.子育てひろば　3.コープママのサポートクッキング

地域SNS「PAZZA」との連携

PIAZZA株式会社と連携し、SNSアプリ「PIAZZA」を10月27日から仙台市太白区長町・太子堂・富沢・柳生エリアでオープン。みやぎ生協の情報や生活に役立つ情報を「PIAZZA」を使う地域住民に配信できるようになりました。また、地域のイベントやおさがりなどの、子育て世代に有益な情報も、住民同士で交換することが可能となりました。



PIAZZA矢野晃平社長とみやぎ生協宮本弘理事長、大越健治専務

こ～ぷくらしの助け合いの会

2017年10月から、誰もが気軽に助け合いの会を利用できるように、メンバー（組合員）でなくても登録できるように変更しました。7月からは岩沼市の日常生活援助サービスをこ～ぷくらしの助け合いの会で受託し、のべ99人の方を85人の活動会員が援助しました。くらしの助け合いの会全体では、1年間で高齢者の掃除を中心に通院の同行や子育て家庭へのお手伝いなど、30,273時間の活動が行われました。今後も、地域で安心してくらし続けられるように助け合いの輪を広げていきます。


こ～ぷくらしの助け合いの会

こ～ぷくらしの助け合いとは

メンバーどうしの助け合い活動として1985年に設立されました。会員は利用会員・活動会員・賛助会員があります。活動は高齢者だけではなく、障がいや病気の方、また若い子育て家庭も対象に支援が行われています。
会員になるためには年会費1,000円が必要です。
（活動会員・賛助会員はメンバーであること）

会員数:活動会員580人、利用会員1,481人、賛助会員447人
（2017年3月20日現在）



平和について考える活動

「ヒロシマ・ナガサキの被爆者が訴える核兵器廃絶国際署名」に取り組みました。

「ヒバクシャ国際署名」を成功させるために、映画「この世界の片隅に」の上映会を2会場で6回、クリスマス時期に平和を考える渡辺祥子さんの朗読会「子どもたちに平和な未来を」を3回開催しました。こ～ぷ委員会や地域のさまざまな平和の企画でも署名に取り組み、目標の2万筆達成につなげることができました。

ヒロシマ平和行動

2017年8月4～6日に行った「ヒロシマ平和行動」で被爆者の体験を学習した参加者の報告会を、8月19日に開催し65人が参加しました。広島へ派遣した親子3組、高校生1人の報告では、碑めぐりや被爆者の証言で知った被爆の実相から感じたことを発表し、参加者と平和への思いを共有しました。



「ヒロシマ平和行動」参加者

沖縄戦跡・基地めぐり

現在の沖縄における諸問題やこれからの平和について考えることを目的とした「沖縄戦跡・基地めぐり」では、2017年3月27～29日に学生1人を含む4人を派遣しました。その報告会を4月8日に開催し、51人が参加しました。地上戦の傷跡や今なお残る米軍基地など、沖縄の現状を目のあたりにして、平和の大切さを訴えました。



「沖縄戦跡・基地めぐり」参加者

憲法9条を守る活動

「憲法9条を守り生かす宮城のつどい2017」が11月19日仙台サンプラザホールで開催され、1,800人が参加しました。第1部の講演では首都大学東京大学院教授の木村草太氏が「憲法 9条の今後」という演題で講演されました。第2部は、仙台弁護士会スウィングローヤーズの皆様によるミニコンサートがあり会場は大いに盛り上がりました。

◆平和とくらしに関する詳細はこちらからご覧になれます。http://www.miyagi.coop/member/heiwa/

第3章

CSR Report Corporate Social Responsibility Report 2018

社会貢献活動



地域社会のセーフティネットとして…

くらしと家計の相談室



“くらしと家計の相談室”（生活相談・家計再生支援貸付事業）では、お金に関する様々なご相談を承ります。困りごとの解決に資金の調達が必要な場合は、生協独自の貸付支援も検討しています。2018年度は宮城県と家計相談支援事業の業務委託契約を締結し、県内3カ所の相談窓口対応を始めています。

2017年度 相談・貸付の状況

	2017年度	事業累計
電話相談受付数	884	4,423
面談相談者数	423	2,329
貸付支援件数	123	778
貸付支援金額	9,172万円	6億7,012万円

（2018年3月20日現在）

相談事例Case

カードのリボ払いでいつの間にか100万円の債務!!

クレジットカードの「リボ払い」の相談が増えています。毎月5万円使うのに支払いは1万円。残り4万円は?ショッピング残高がいつの間にか100万円の債務になっていることも。ご自身のカード利用限度枠や毎月の返済額を意識して、無駄な金利をかけずに賢く使いましょう。今より低い金利での借り換えのご提案もしています。

みやぎ生協 くらしと家計の相談室

相談からご融資までをサポート! ☎022-292-5015

仙台市宮城野区榴岡2-3-15 花本ビル8階　受付時間：10:00～17:00（日・祝日を除く）

くらしの相談ダイヤル

くらし全般のご相談を承る専用ダイヤルを開設しています。くらしの助け合いの会の窓口も兼ね、みやぎ生協で取り扱う各種活動、事業サービスのご紹介、他相談窓口のご案内など、様々なお困りごとに対処しています。

☎022-292-5016 受付時間：10:00～16:00（日・祝日を除く）

こ～ぷくらしサポートガイドブック



困ったときのお役立ち情報満載！

生協が取り扱うくらしに関する様々な商品、サービスを冊子にまとめました。生協をより活用いただける、ガイドブックです。保存版としてお手元においてください。

◆『こ～ぷ くらしサポートガイドブック』のダウンロードはこちらから。
http://www.miyagi.coop/about/introduction/support_guide/index.html

大切な食べ物を必要としている人に届けます。

COOP フードバンク

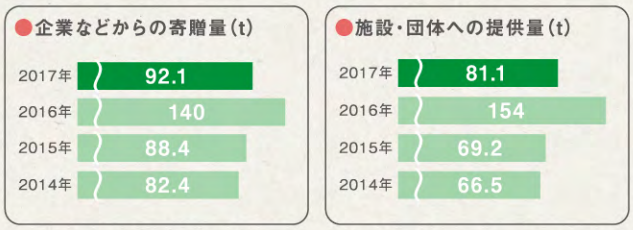


マスコットキャラクター
「フ〜助」

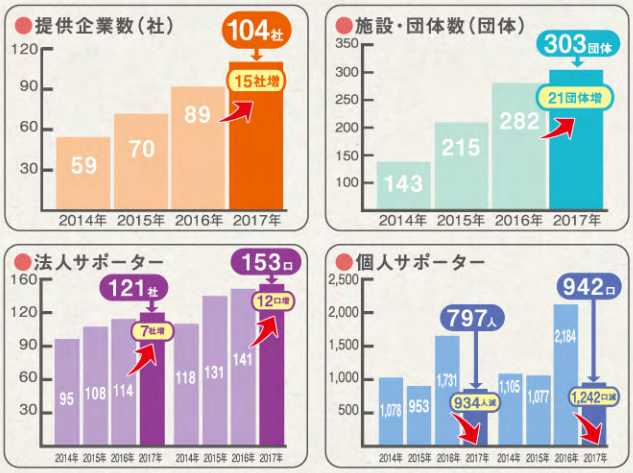
コープフードバンクがめざすもの

お取引様の食品企業等から余剰食品の無償提供を受け、社会福祉に寄与する団体・組織へ無償で提供しています。食品の無駄をなくすとともに、誰でも安心して暮らせる地域づくりを目指しています。

コープフードバンクの1年間の活動



※寄贈量と提供量の差については、賞味期限が長いもの等、倉庫に在庫しております。期限を見ながら計画的に出荷しております。



※2017年度から、みやぎ生協で実施している個人の賛助金申込数を除いています。

●ボランティアに参加してくれた人数　延べ204人

仙台市出身、卓球の張本智和選手からお米300kgを寄付



2018年1月に開催された「全日本卓球選手権男子シングルス」で、史上最年少で優勝を成し遂げた張本選手のご好意により、副賞としていただいたお米300kgをコープフードバンクへ寄贈していただきました。



張本選手後援会副会長よりお米を贈呈



宮城県内の児童福祉施設へ

2018年3月21日現在、法人サポーター企業様121社(五十音順)

●あいおいニッセイ同和損害保険(株)東北本部
●アクアクララ㈱
●アフラック仙台総合支社
●㈱あらた仙台支店
●㈱イーネット
●イカリ消毒仙台㈱
●㈱イーグル
●砂金石油ガス㈱
●㈱一条工務店宮城
●㈱伊藤園
●伊藤忠商事㈱
●インプルーブ㈱
●ウォールテック㈱
●内池醸造㈱
●エイムカイワ㈱
●江崎グリコ㈱
●㈱エスデーファイブ
●SBSゼンツウ㈱
●大塚食品㈱
●㈱大沼製菓
●オリックス自動車㈱
●勝山企業㈱
●加藤産業㈱仙台支店
●㈱神奈川クリーニング
●共栄火災海上保険㈱東北支店仙台支社
●空調技工㈱
●㈱グラビアジャパン
●コカ・コーラボトラーズジャパン㈱
●国分東北㈱
●国分フードクリエイト㈱東北支社
●㈱コスモジャパン
●㈱コム
●有限責任事業組合コムワーク・プロジェクト
●小山産業㈱
●㈱サイコー
●㈱斎良工業
●佐川印刷㈱
●㈱サトー商会
●㈱佐元工務店
●三協青果㈱
●㈱サン・ベンディング東北
●㈱シーテック仙都
●㈱七十七銀行
●㈱清水
●㈱新出光東京支店
●㈱伸電
●JAかごしま茶業㈱
●㈱事務機商事
●JTB印刷㈱
●スモリ工業㈱
●㈱清月記
●セルティックエンジニアリング㈱
●㈱仙水センター
●仙台国際ホテル㈱
●㈱仙台水産
●㈲仙台トクエ
●㈱仙台放送
●㈱仙台丸水配送
●㈲仙南瓦工業
●㈱ゼンケン
●損害保険ジャパン日本興亜㈱
●㈱第一エージェンシー
●㈱だい久製麺
●㈱タイハク
●㈱多田紙工
●㈱ダンク
●㈱デイリーフーズ東北支店
●㈱電通東日本
●東京海上日動火災保険㈱
●㈱東北アドバンス
●東通インテグレート㈱
●東北共栄建設㈱
●㈱東流社
●㈱富樫工業
●㈱トキワ
●凸版印刷㈱東日本事業本部
●西松建設㈱北日本支社
●㈱日専連ライフサービス
●㈱日本アクセス東北支社
●㈱日本経済広告社
●日本酒類販売株式会社
●日本生活協同組合連合会
●日本労働者協同組合連合会センター事業団東北事業本部
●ネスレ日本㈱北日本支社
●㈱ノダ
●税理士法人 橋浦会計事務所
●パナソニック産機システムズ㈱東北支店
●㈱パールライス宮城
●㈱ヒューテックノオリン東北支店
●㈱ビーブロ
●㈱フクシン
●㈱フクダ・アンド・パートナーズ
●富士ゼロックス宮城㈱
●㈱プランニング・オフィス社
●㈱ホクトコーポレーション
●㈱ボイス仙台支社
●ボーキ佐藤㈱仙台支店
●ボーキ佐藤燃料㈱
●㈱ポップセンターさくら
●松印松浦青果㈱
●マリッジパートナーズ㈱
●丸庄クリーニング㈱
●㈱マルタマ
●丸大堀内㈱
●マルニ食品㈱
●三井不動産リアルティ東北㈱
●三菱食品㈱東北支社
●㈱みなとモーター
●㈱宮果
●みやぎ県南医療生活協同組合
●公益財団法人宮城厚生協会
●更生保護法人宮城東華会
●㈱宮城読売IS
●明治安田生命保険相互会社東北公法人部法人営業部
●メフレ㈱
●㈱守屋青果物商店
●㈲やない製麺
●㈱リビング・プロモーション
●㈱リブネット東北
●㈱流通サービス
●六興電気㈱東北支店



1



2



3

■ユニセフ募金応援キャンペーンにご協力頂いたお取引先様
2017年度第1期（10～11月）：46社、第2期（2月）：44社（順不同、敬称略）

アサヒ飲料㈱、旭化成ホームプロダクツ㈱、イートアンド㈱、㈱伊藤園、伊藤ハムデイリー㈱、岩塚製菓㈱、UHA味覚糖㈱、大塚食品㈱、オタフクソース㈱、花王カスタマーマーケティング㈱、カゴメ㈱、亀田製菓㈱、上山製紙㈱、キッコーマン食品㈱、銀河フーズ㈱、国分東北㈱、コカ・コーライーストジャパン㈱、小山産業㈱、相模屋食料㈱、三幸製菓㈱、サントリーフーズ㈱、㈱J-オイルミルズ、㈱シーテック仙都、昭和産業㈱、㈱スミフルジャパン、㈱仙水デイリー、㈱ダイショー、東洋水産㈱、日清オイリオグループ㈱、日本ケロッグ（合）、日本水産㈱、日本ハム東販売㈱、日本ハム冷凍食品㈱、日本生協連東北支所、日本製紙クレシア㈱、日本製粉㈱、ネスレ日本㈱、㈱はくばく、はごろもフーズ㈱、はたけなか製麺㈱、ハナマルキ㈱、㈱フードリエ、㈱不二家、プリマハム㈱、フルタ製菓㈱、ブルボン㈱、細川製餡㈱、丸大食品㈱、マルハニチロ㈱、三井農林㈱、㈱Mizkan、三菱アルミニウム㈱、㈱明治、㈱桃屋、森永製菓㈱、森永乳業㈱、モランボン㈱、㈱ヤクルト本社、UCC上島珈琲㈱、雪印メグミルク㈱、ロッテ商事㈱

地域社会への貢献・・・

地域で活動する団体への支援

ふれあい製品のお店「はぁと」

セラビ幸町店にある「はぁと」のお店は、「仙台市障害者販売業務訓練等事業」の実施店舗として福祉施設で作られた製品の展示・販売を行なっています。障がいのある方が接客を通して一般就労に向けた経験を積み、視野を広げる機会となったほか、店舗の場所の無償提供を継続し、のべ365人がボランティアとして協力しました。



ありのまま舎会報 折り込みボランティア

難病患者・重度障がい者への理解を広める活動をしている社会福祉法人ありのまま舎が毎月発行している会報「自立」の折り込み作業に、ボランティアのべ59人が協力しました。

子ども食堂への支援

こどもが一人でも安心して来られる、または地域の多世代の方々が参加できる無料または定額の食堂「子ども食堂」は、県内30か所以上で展開しています。みやぎ生協では現在6店舗（幸町店、桜ヶ丘店、多賀城店、鶴ケ谷店、荒井店、亘理店）の集会室を無償提供し、地域の子ども達、親子、住民を対象にNPOやボランティアグループが食事をとおして団らんの場を展開しています。



認知症カフェへの協力

地域包括支援センターや認知症の人と家族の会などが主催する「認知症カフェ」や「介護予防教室」に、18店舗・事業所を会場として提供し、地域や団体との連携をすすめています。



◆福祉に関する詳細はこちらからご覧になれます。
http://www.miyagi.coop/member/fukushi/

1.仙台市長懇談会　2.12月23日ハンド・イン・ハンド（街頭募金活動）①
3.12月23日ハンド・イン・ハンド（街頭募金活動）②

みやぎ生協福祉活動助成金

地域福祉の活動へ助成する2017年度福祉活動助成金は、43団体へ合計9,982,000円を助成しました。地域の居場所づくりや障がい者も一緒に活動できるイベント、子ども食堂など、現在の課題解決に向けた取組みや地域に必要な仕組みづくりなどへの支援となりました。これまでの助成累計は、のべ560団体、115,101,750円になっています。



みやぎ生協福祉活動助成金助成団体一覧

- ㈱アンソレイユ 放課後デイサービスひだまりポッケ
- 傾聴ボランティアサークル 梨～風
- 一般社団法人宮城骨髄バンク
- 特定非営利活動法人そのつ森
- オレンジカフェ「Now or Never」
- 宮城音訳奉仕会
- 非営利団体虹の橋
- なごみ会・中野
- 非営利団体ハッピーピース
- 折立こども食堂
- 特定非営利活動法人スマイル劇団
- ドリームキャンプ実行委員会
- 仙台に夜間中学をつくり育てる会
- こども未来フォーラム実行委員会
- 特定非営利活動法人 地域生活支援オレンジねっと
- Naritaマルシェ
- こみこみ宮城支部
- D-SmileTOHOKU
- 非営利団体宮城野こども食堂
- 特定非営利活動法人 Synapse40

2017年度上期 助成数:21団体 助成金 4,392,000円

- つるがや元気会
- 亘理町重症心身障がい児者親の会ベリーの会
- 社会福祉法人 南三陸町社会福祉協議会
- NPO法人ほっとたいむ
- みやぎっ子「食」・「農」くらぶ
- 特定非営利活動法人アンソレイユ
- みやぎ子育て・女性健康支援センター
- コーチズみやぎ
- 東仙台子ども食堂
- Naritaマルシェ
- 柴田視覚障がい者福祉協会「四季さくら」
- 囲碁将棋ボランティア
- 特定非営利活動法人アスイク
- 気仙沼はまらいんや会
- みやぎ化学物質過敏症・アレルギーの会
- せんだいこども食堂
- 網地島ふるさと楽好
- 一般社団法人ゆいいきる
- ここほっとネット
- 気仙沼市赤岩児童館子育てネットあかいわ
- 学びの庭

2017年度下期 助成数:22団体 助成金 5,590,000円

行政・他団体との協力

首長・議員懇談会

震災復興後の地域のコミュニティづくりや生活に困難をかかえた人への支援など、首長や議員と懇談し意見を交換する場として毎年開催しています。2017年度は「誰もが安心してくらせる地域づくり」をテーマに、29自治体の首長、19人の県議、23人の仙台市議とメンバーのべ675人が懇談しました。みやぎ生協の活動を伝え、地域で共に取り組めること、くらしの向上のために連携できることを話し合う機会となっています。

宮城県・石巻市との包括連携協定

宮城県とは2016年6月に、石巻市とは2017年7月にそれぞれ締結しました。いずれも「安心して暮らせる地域づくり」に向けて13項目の連携事項について協力しています。

FamilyMart・七ヶ宿町との包括連携協定

2016年7月27日、七ヶ宿町、株式会社ファミリーマートと、3者で「安心して暮らせる地域づくり」を推進することを目的に、6つの連携事項に協力する包括連携協定を締結しました。

日本赤十字社との災害協定締結

2016年6月9日、日本赤十字社宮城県支部と「災害時における物資支援協力に関する協定」を締結しました。自治体以外の災害協定締結はこれが初めてです。

緊急消防援助隊派遣時の食料品供給協力協定

消防署が被災地等から応援要請を受けた場合、緊急消防隊を派遣して、数日間消防活動を行います。この時派遣隊の食糧等を十分確保できない状態にありました。これを解消するために、みやぎ生協に要請があった場合優先的に対応するものです。仙台市消防局と石巻地区広域行政事務組合消防本部と締結しました。

募金活動・災害支援

様々な募金による支援

2017年度、通年で取り組む募金に加え災害緊急募金も呼びかけし、店舗でのレジ募金・募金箱、共同購入注文書や職員からの募金を併せ、総額9,570,356円となりました。2016年10月から開始したレジ募金。募金箱もリニューアルし1体型4種類の募金が気軽にできるようになったことで、より多くのメンバー皆様のご協力が支援へとつながりました。

〈内訳〉

- COOP緑の基金 …… 416,235円
- コープフードバンク …… 425,871円
- ユニセフ募金 …… 1,951,517円
- 盲導犬募金 …… 975,722円
- 九州北部豪雨災害募金 …… 3,506,486円
- 「めぐみ野」生産者台風21号被害緊急募金 …… 1,357,844円
- くらし・地域復興応援募金 …… 936,681円

※なお、くらし・地域復興応援募金はみやぎ生協、コープふくしま、福島県生協連、いわて生協で実施している、被災者支援の取組みのために活用させていただきます。

国際社会への支援・・・

様々な途上国支援

特定非営利活動法人「ハンガー・フリー・ワールド」の活動に協力し、書き損じハガキ、切手、CDなどを回収・換金し、4つの開発途上国の自立支援の活動と「みやぎ生協平和募金」に役立てています。

ユニセフの取り組み

すべての子どもの命と権利を守るため、さまざまな方法でユニセフ支援に取り組んでいます。店舗での募金箱設置や応援キャンペーン募金などを実施しています。

■2017年度ユニセフ募金額

メンバーからの一般募金	5,149,137円
お取引先様キャンペーン募金	861,072円
牛乳パック回収による募金	3,421,435円
ペットボトルキャップ回収による募金	33,381円
合　計	9,465,025円

※全体から東ティモール指定募金へ420万円、ロヒンギャ難民緊急募金へ50万円を拠出しました。

第4章

CSR Report Corporate Social Responsibility Report 2018



事業活動



くらしに役立つ事業

店舗

買い物を楽しく、快適に

サービスケアアテンダント資格者を配置し人にやさしいお店づくりを目指しています。探しやすい、選びやすい商品陳列、見やすい案内表示に努め快適空間を提供しています。また「提案のあるお店づくり」としてハレの日をはじめ、普段のお買い物の品揃えをより充実させます。2017年12月からは子育て世代の「ココイククラブ」メンバーに毎月100円割引券を発行し利用拡大を図っています。



錦町店の店内

錦町店開店

9月29日仙台市青葉区錦町にみやぎ生協49店舗目となる錦町店がオープンしました。生活と多様なライフスタイルに合わせた食提案型の鮮度感あふれる売り場構成、またお店で購入したものをその場で食べられるイートインコーナー（全97席）を2階に設置し、イベント開催など快適にお買い物ができるお店です。



錦町外観

ミイカカード

電子マネー『メンバーコード付MiiCA（ミイカ）』は2017年11月からの導入以来、申し込み件数は2018年2月度までの累計で38,191件となり、利用率は全店平均12%となっています。1,000円チャージ毎に3ポイント、300円利用ごとに通常ポイントにプラス1ポイントが付く等お買い得なカードです。



ミイカカード

FamilyMart+COOP鶴ヶ谷店

みやぎ生協、仙台市では初となる一体型コンビニエンス店舗（24時間営業）として、ファミリーマート＋ＣＯＯＰ鶴ヶ谷店（宮城野区）を2017年12月13日朝7時にオープンしました。七ヶ宿店に続き県内2号店目となります。

鶴ヶ谷2丁目に整備する「ヒルプラザ鶴ヶ谷」の一画に位置し、同敷地内には「幸楽苑（ラーメン）」・「魚べい（寿司）」の飲食店も配置しています。

売場は約62坪で、通常のファミリーマート（50坪）よりひとまわり大きいサイズとし、即食に特化した「惣菜」・「ベーカリー」売場を新しく配置しました。店内には気軽に休憩できるイートインコーナー（20席）も設置しています。鶴ヶ谷団地・西山地区には、いままでコンビニエンスストアがない地区でしたので、日常のお買い物・お友達同士で集えるコミュニティーのある地元密着型の店舗を目指しています。



Family Mart+COOP鶴ヶ谷店外観

サービスケアアテンダント

2017年度現在サービスケアアテンダント資格取得者は273名となっており、すべての店舗に複数名配置してお買いもので困っているメンバーのお手伝いを行っています。有資格者のフォローアップ研修も3年毎実施しており、店舗ではよりサービス品質の向上を目指して実践継続を行っております。

共同購入

高齢者の見守り活動

配達時にいつもと違う、気になる状況、異変に気付いた場合にセンターへ報告し、センターから行政窓口への連絡をして安否を確認する見守り活動の取り組みが2017年度は2月までで37件、取り組みを開始した2012年2月からは、累計で157件の連絡と対応がありました。引き続き地域に寄り添った取り組みとして継続していきます。

個配メールサービス

個人宅配利用者の離れて暮らすご家族へ、配達時の在宅状況を登録されたメールアドレスへお知らせする登録無料のメールサービスは2018年2月現在214名が利用をしています。個人宅配を通じてお役にたてるサービスを今後も継続します。


1



2

1.共同購入部 中央センター
2.共同購入部 イベントカー

注文控メール

注文用紙や電話、あっとコープで注文した商品名一覧を注文日の翌々日にメールでお知らせする、登録無料の注文控メールサービスは現在3,785名の方がご利用しております。「店舗でお買い物する際に共同購入で注文した商品と重複購入しなくなった」と喜ばれております。

夕食宅配サービス

調理や買い物が大変という方へ、栄養士が考えたバランスの良い日替わりの献立を、1食からお届けします。

また、県内全市町村と、「高齢者見守り活動」の協定を結んでいます。

ご利用の皆様やご家族に喜んでいただける夕食と、安心を、ご提供できるよう取り組んで参ります。




夕食宅配





1



2


3


4


5

インターネット事業

@コープ（あっと）

共同購入の注文をスマートフォンやパソコンでチラシを見ながらお買い物ができて、注文した控えをメールで受け取ることができます。また、登録したお店の最新のチラシを自動的にメールで受け取ることや、生協でお買物した内容を家計簿アプリで見ることができます。メンバーのお買物すべてを便利に楽しくする生協のインターネットサービスが@コープです。

かんたん生協タブレット

音声検索、地図、動画などの便利な機能はもちろん、共同購入の注文が簡単にできるアプリ、生協で購入した商品を自動で登録するアプリ、生協オリジナルの脳トレゲームなどがセットアップされています。

コープネットショップ

店舗のお寿司やオードブルなどを簡単便利にインターネットで注文できます。また全国のうまいもの、銘産品を自宅やご指定の住所へ宅配でお届けします。

サービス事業

ビストロラウンジCosteria（コステリア）

みやぎ生協の子会社㈱コープ総合サービスが運営するレストラン「コステリア」を一番町の目抜き通りに開店して、1年半がたちました。みやぎ生協の顔とくらしの見える産直「めぐみ野」商品と東北の食を応援する「古今東北」ブランド商品などで調理した食事やお酒を提供し、気軽で明るい雰囲気のお店として、親しい方とのお食事だけでなく結婚式の二次会や出合いの会などのイベントでも、多くのメンバーにご利用を頂いています。

環境・省エネリフォームの取組（住まいのセンター）

住まいのセンターでは、自然エネルギーによる発電とCO_2排出量の削減で環境保全に貢献するため、断熱ガラスと太陽光発電の普及拡大に取り組みました。コープの快適リフォーム情報誌『Reフレッシュ』で毎月紹介したほか、断熱ガラスのサンプルを使って熱伝導を体験できる無料相談会を延べ46回、太陽光発電の無料相談会を3回、店舗で実施しました。断熱ガラスを利用したメンバーからは、「予想以上に暖かく快適です。ありがとうございました。」という声をいただきました。



環境・省エネリフォームの取組

1.サンネット産直ツアー　2.デイサービスでの機能訓練①　3.デイサービスでの機能訓練②
4.こやぎ保育園での保育風景①　5.こやぎ保育園での保育風景②

宅配水（アクアクララみやぎ生協）

水は健康と生活の基本。ふだんの暮らしはもちろん、災害時にも役立つ安心でおいしい水は、みやぎ食品衛生自主管理認証制度（みやぎHACCP）のプレミアム認証を取得し、県で定めた衛生管理基準に適合した自社施設で製造しています。回収して再利用できるリターナブルボトル。どなたでもご利用頂けるように、12リットルと7リットルの２種類をご用意し宮城県内1万900世帯のメンバーにご利用されています。

コープトラベル東北

㈱コープトラベル東北は、みやぎ生協、いわて生協、生協共立社の出資で1994年に旅行事業を開始しました。生協のメンバーさんの宿泊手配やお取引先様の社員旅行等様々な旅行業務全般を取り扱っています。生産者と消費者が繋がっている生協だからこそできる産直交流事業の企画は参加者から好評です。JTBや近畿日本ツーリストのパック旅行も取扱いできます。

CO・OP共済

ライフプランニング活動

ライフプランアドバイザー（LPA）と呼ばれる資格を有したメンバーが、「社会保障」「保険の仕組み」「教育費」「税金に関すること」など、よりよい暮らしを実現するために学習会を開催しています。2017年度は、学習会や講演会に4,441名のメンバーが参加して大好評でした。今後も、メンバーの立場で楽しく分かりやすい学習会・講演会を実施して行きます。



ライフプランアドバイザーの皆さん

コーすけの普及活動

みやぎ生協のメンバーに愛されているコープ共済キャラクターのコーすけが、県内を駆け回りお知らせ活動をしています。コーすけが参加する楽しいイベントを通して、コープ共済の輪を広げて行きます。



東北・みやぎ復興マラソンの様子

こーぷ福祉会

こーぷ福祉会の介護事業

みやぎ生協はその福祉理念を高齢者の介護保険事業で実践するために、1999年に社会福祉法人こーぷ福祉会を設立し、今年で19年目を迎えます。こーぷ福祉会は地域の高齢者が在宅で暮らし続けられる介護の拠点を桜ヶ丘、石巻蛇田、緑ヶ丘の3ヵ所に設置して、デイサービス、訪問介護、訪問看護、居宅介護、定期巡回随時対応型訪問介護看護を提供しています。2016年よりなごみの杜桜ヶ丘でサービス付き高齢者向住宅と老人短期入所施設を開設し、新たに宿泊、住宅機能を追加しました。また、みやぎ生協桜ヶ丘店内に介護の相談窓口として仙台市委託事業である桜ヶ丘地域包括支援センターを運営しています。これらのサービスを介護専門職など202人の職員で運営しています。また、159人の後援会会員とのべ約2千人（2017年度見込み）のボランティアが日々、こーぷ福祉会の活動を支えています。桜ケ丘、緑ヶ丘では利用者が保持している自立できる生活や身体能力を引き出す自立支援を介護の基本に据え、介護ケアに取り組みました。また機能訓練指導員（理学訓練士、作業療法士）を配置し、そうした取り組みを専門的に援助しています。

こーぷ福祉会の被災者支援の福祉サロン

被災者支援の「福祉サロン」は2017年度高齢協との共催を含め11回開催し、ボランティアを含めてのべ199人、2011年の開始以来では113回、のべ約2,680人の方が参加する企画として継続しました。また、社会福祉法人協同福祉会(奈良県)、大和郡山ロータリークラブの方々の支援で全国金魚すくい大会石巻予選大会、本選招待や鹿児島のフェスティバロ社の皆さんが2tトラックに満載の無農薬の柑橘類等を配布企画に協力しました。

ショートステイ併設サービス付き高齢者向け住宅

高齢者の方が安心して地域で暮らしていける新たなサービスとしてサービス付き高齢者向住宅を2016年秋に開設し、33人の方が居住しています。こ〜ぷのお家桜ケ丘の定期巡回訪問介護・看護（24時間）サービスを合わせて地域で暮らし続けられる条件を整備しました。老人短期入所施設（ショートステイ）もこーぷ福祉会の利用者の利用を含め、当初予定通り利用されています。

職員、地域の待機児童対策として保育園を開設

2017年4月開設した仙台市認可の地域型保育事業事業所内保育施設「コープこやぎの保育園」（定員32人）は従業員枠8人、地域枠15人の合計23人が利用しています。地域、職員とも利用問い合わせが続いており、2018年度中に定員通りの利用をなる見込みです。









1.宮城県の教材会社9社で開催した『教材フェスティバルin宮城』　2.こ～ぷプログラミングクラブ①
3.こ～ぷプログラミングクラブ②　4.学校用品.net

学校部・㈱宮城県学校用品協会

学校部・㈱宮城県学校用品協会

㈱宮城県学校用品協会は、みやぎ生協の子会社で、県内の学校への教材販売や家庭学習教材・学習教室事業を担っています。

『学校・先生方に役立つ情報提供』 COOP授業に役立つ学習ガイド

学校部では、みやぎ生協で行っている、環境・食・福祉・ユニセフなどの活動から、学校での学習素材として使えるものを『COOP 授業に役立つ学習ガイドブック』にまとめて掲載し、県内全小・中各学校へお届けし情報を提供しています。



※DVD貸し出し、資料提供・頒布、生協店舗や取引先見学、生協事業所職場体験等の受入など

職場体験・見学の受け入れ

職場体験実習・見学は店舗を中心に共同購入・学校部・ディサービスセンター・産直コースなどを設定しています。2017年度は職場体験・実習職場見学（131校）、食育体験店舗ツアー（22校）などの受入を行いました。

学校教材販売事業

㈱宮城県学校用品協会は、県内すべての学校へ教材教具、備品、体育着などを販売しています。「よりよい教材をより安く」というテーマのもと、日常的に教育現場の先生方のご意見を聴き取り、児童生徒に役立つ、先生にとって指導しやすい教材の提供をモットーにしています。また、各小中学校教科研究会の編集、発行している出版物・図書の編集、販売支援をしています。代表的なものとしては、小中書写研究会の書きぞめ手本作成印刷、書きぞめ展覧会の後援や仙台市小学校教科研究会編集発行の夏休みドリル帳があります。今年の書きぞめ展覧会には、約20,000人の来場者がありました。



第71回書きぞめ展覧会の様子

㈱宮城県学校用品協会の教育助成制度

㈱宮城県学校用品協会は、宮城県内の学校教育の進展に寄与することを目的に、学校用品事業を通して生まれた収益の一部から小中学校の教育実践活動へ「教育助成」を行っています。学校研究活動助成や教育講演会・講習会の講師紹介・派遣など、様々な教育研究活動や授業に役立てられています。



2017年度教育研究活動助成金交付式

こ～ぷ家庭教育センター

幼児～中学生までの家庭学習教材販売、学習教室、英会話教室事業を通して、子どもたちの学力向上、家庭学習の充実を支援しています。また、学童保育事業として「こ～ぷアフタースクール」。パソコンで勉強できる「こ～ぷ松陰塾」。新規事業としてプログラミングを学習する「こ～ぷプログラミングクラブ」を生協の各店舗を会場に開催しています。



こ～ぷアフタースクール

学校用品ネットショップ

（株）宮城県学校用品協会の独自ネットショップ『学校用品.net』は、学校指定体育着や水泳用品、学校で使用する用品（書きぞめ用品、とびなわ、リコーダーなど）をパソコンやスマホから購入できます。

https://www.gakkouyouhin.net/

事業を支える…

コンプライアンスの徹底

公正な取引の徹底

「公正な取引の徹底」は、みやぎ生協の事業活動にとって最も重要であり、お取引先様に対する最大の責務です。私的独占の禁止、公正な取引の確保に関する法律（独占禁止法）の「不公正な取引方法の禁止」及び「優越的地位の乱用」に抵触するような商取引は決して行いません。このようなことが起こらないように、お取引先様と商談する商務には「公正な取引促進」に関する教育を行っています。

外部通報制度

お取引先様とみやぎ生協のホットラインを設け、生協の役職員に何か不適切な問題があった場合に通報頂く仕組みを持っています。通報があった場合は、必要な調査などを十分行い、通報者に納得頂けるよう対応します。

各種法令の遵守

みやぎ生協が事業活動を行う上で、遵守しなければならない法令は多岐にわたります。2013年より、事業活動に関する法令の改定を把握する仕組みを導入し、適切な対応を行うよう努めています。

お取引先様とのパートナーシップ

毎年6月、「みやぎ生協の方針説明会」を開催しています。これは、お取引先様にみやぎ生協の次年度の方針を理解頂き、より良いパートナーシップを形成していく一助とすることが目的です。1982年の設立以来続いており、2016年は891社、1,400人の方々にご参加頂きました。

広報活動



こやぎのみやぎちゃん

2015年度から、みやぎ生協のオリジナルキャラクターとして「こやぎのみやぎちゃん」を起用しています。優しい女の子で、相棒の文鳥「はこぶんちょう」と一緒に、みやぎ生協のイベントなどで活躍しています。無料通信アプリ「LINE」のスタンプも販売中です。

メディア広報

2015年からテレビやラジオなどでみやぎ生協のコーナーを持ち、また店のワンデーや個人宅配、コープの電気などのTVコマーシャルも数多く放映しています。事業活動や商品紹介だけでなく、メンバー活動や社会貢献活動のお知らせなど、生協としての地域活動をアピールしています。

第5章

CSR Report Corporate Social Responsibility Report 2018



環境活動



秋田の風力発電

かけがえのない自然・環境を未来にのこす

環境理念

みやぎ生協は、メンバー（組合員）と職員の活動や事業における取り組みを通して環境負荷の低減と自然との共生に貢献し、持続的に発展する社会づくりに寄与します。

環境方針

みやぎ生協は、食料品、衣料品、日用品雑貨等の商品をメンバーに供給していることを踏まえ、環境理念を基に環境保全活動を進め、事業者としての社会的な責任を果たします。

1.「低炭素社会、循環型社会、自然と共生した社会づくり」の3つの視点で、重点課題として以下の4項目をメンバーとともに取り組みます。
   1）生協事業におけるCO_2の総量削減
      省エネ機器、再生可能エネルギー、BDFなどの普及、拡大によるCO_2の総排出量での削減
   2）事業からの廃棄物の削減・再資源化
      事業及び家庭ごみの減量のための発生抑制、再利用、再生利用、熱回収などの推進
   3）環境に配慮した地域社会の構築
      市民（メンバー・生活者）、市民団体、自治体、行政などと環境に配慮した地域社会構築の推進
   4）商品事業における環境配慮
      みやぎ生協の産直品・地産地消商品、環境配慮商品の取り扱い強化

2. 環境に関する法規制及びみやぎ生協が受け入れを決めた要求事項（協定書など）を順守します。

3. 環境汚染の予防と自ら構築した環境マネジメントシステムの継続的な改善に努めます。

4. 全職員及び業務委託先に教育・啓発を積極的に行い、環境方針の理解と環境意識の向上を図ります。

みやぎ生活協同組合　理事長 宮本 弘

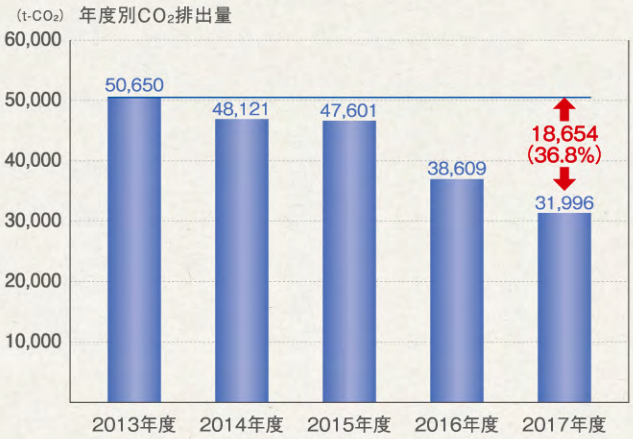


低炭素社会の構築に向けて

事業におけるCO_2の総量削減

みやぎ生協は、新店や既存店改装時に高効率の冷凍・冷蔵設備や空調設備を導入したり、日常の省エネ運用によって事業におけるCO_2排出量削減に取り組んでいます。削減計画の基準年の2013年度の排出量から2017年度には20.0%(10,200トン)以上削減する目標に対して、36.8%(18,654トン)削減しました。

2016年4月から電力購入先を新電力の地球クラブに、ほとんどの事業所で変更しました。日本生協連の子会社である地球クラブは、再生可能エネルギー比率の高い電力を供給しています。このことでCO_2排出係数が下がり、排出抑制になりました。



再生可能エネルギーの普及拡大

太陽光発電

みやぎ生協の店舗や共同購入センターなど16ヵ所に太陽光発電設備(自家消費)を設置しています。発電能力は560kWで、2017年度の発電実績は619,898kWhでした。これによるCO_2削減効果は254トンでした。2017年度7月から仙台中央センターにも発電能力49.5kWを設置し、売電しています。

SVOコージェネレーション発電機

SVO(ストレートベジタブルオイル:廃食油)を燃料とした発電機をリサイクルセンター(発電能力25kW)に加え、2017年6月度から本部(25kW)と共同購入仙台東センター(25kW)にも設置し稼働開始しました。2017年度の発電実績は3台合計で177,546kWhでした。これによるCO_2削減効果は145トンでした。

風力発電事業

みやぎ生協、いわて生協、コープあきたの3生協と3つの会社がコープ東北グリーンエネルギー株式会社に共同出資する形で風力発電事業を2016年10月から稼働しました。秋田県内の日本海沿岸に2,500KWの風車を3基建設しました。メンバーから愛称を公募し、みやぎ生協の2基は「風のめぐみ」「風のつばさ」、いわて生協の風車は「風のみらい」と名づけられました。2017年度の発電実績は3基合計で1,791万kWhで、地球クラブに売電しています。これによるCO_2削減効果は9,763トンでした。



野田木質バイオマス発電所

木質バイオマス発電事業

岩手県野田村の木質バイオマス発電事業に、みやぎ生協も出資参画し、2016年9月から稼働しました。発電能力は14,000kWで、2017年度の発電実績は10,732万kWhでした。これによるCO_2削減効果は58,492トンでした。また2017年4月度から青森県津軽(6MW)、岩手県花巻(6MW)も稼働開始しました。2017年度の発電実績は2つ合計で8,879万kWhでした。これによるCO_2削減効果は48,393トンでした。これらの一部を地球クラブに売電しています。今後は秋田大仙(7MW)と福島田村(7MW)でも稼働予定しています。

みやぎ生協の電力販売事業(子会社)

コープのでんき「COCOENE(ココエネ)」を2017年11月13日より販売を開始しました。環境負荷の少ない電気を利用したいというメンバーニーズに対応し再生可能エネルギーにより発電された電気、環境負荷の少ない電気の販売を開始しました。そのことでエネルギー自給率向上、環境負荷軽減に寄与します。

コープでんき東北

COCO ENE

水素エネルギーの利活用実証事業

みやぎ生協は宮城県が策定した「みやぎ水素エネルギー利活用推進ビジョン」に基づき、水素社会構築を推進する富谷市で、みやぎ生協の物流センターの太陽光発電システムで発電した電力からCO_2を排出せずに水素を製造し、メンバー宅3軒、明石台店と富谷市児童館にエネルギーとして利活用する実証事業に富谷市、日立・丸紅とともに取り組んでいます。



1



2



3

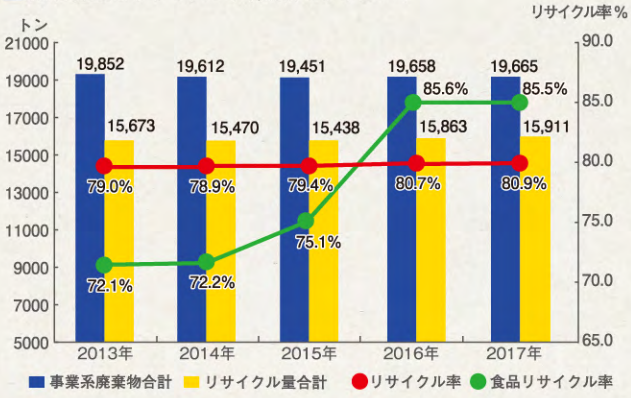
1.古紙回収ボックス(荒井店)　2.小型家電回収ボックス(南光台店)
3.廃食油回収ボックス(南光台店)

廃棄物の削減・再資源化

リサイクルセンターの取り組み

みやぎ生協リサイクルセンターは、みやぎ生協の事業所から出る廃棄物を自ら分別、収集、再資源化して環境負荷を低減するために、2006年から稼動しています。みやぎ生協の店舗などの事業所から回収した古紙、ダンボール、牛乳パック、発砲スチロール、卵パック、プラスチック類などをリサイクルセンターで減容・圧縮し、再資源化しています。全店舗から出る野菜・果物、惣菜、寿司、日配の食品残渣を回収し、エコフィード化(食品残渣を乳酸発酵による液状飼料化)して県内外の養豚場に売却しています。これらの取り組みによって、2017年度のリサイクル率は80.9%、食品リサイクル率は85.5%でした。

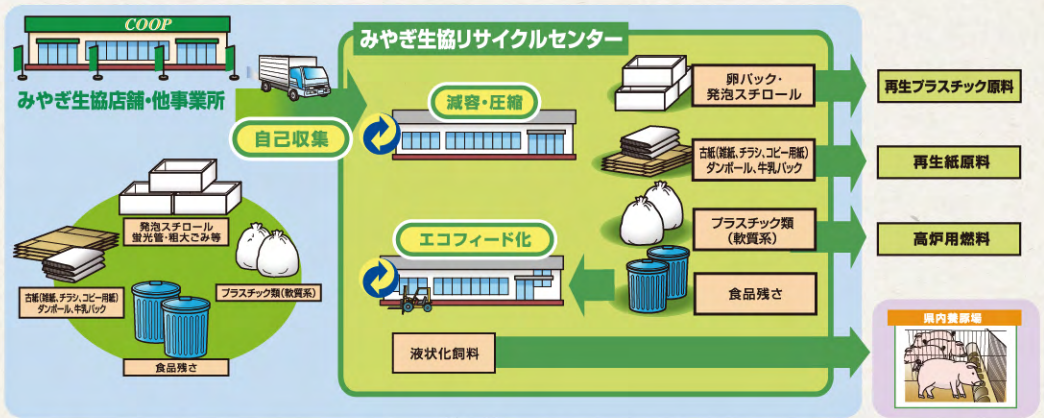
■廃棄物量とリサイクル率、食品リサイクル率



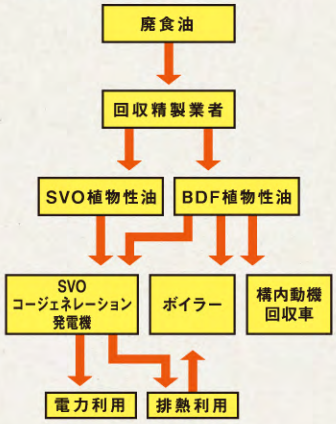
古紙回収

古紙回収ボックスを34店舗に設置し、メンバーから古紙(新聞紙、チラシ、雑誌など)を回収しています。古紙1kgにつき1ポイントで300ポイント溜まると、みやぎ生協の店舗で利用できる300円割引券がもらえる古紙リサイクルポイントシステムを導入しています。この取り組みは家庭ごみの削減、古紙リサイクルの循環型社会作りに貢献しています。2017年度の回収量は7,733トンでした。

■みやぎ生協リサイクルセンターの全体フロー



■SVOコージェネレーション発電機のSVO・BDF・電気・熱のフロー



小型家電回収

仙台市の小型家電リサイクルモデル事業に協力して、2015年6月からみやぎ生協の仙台市内6店舗で小型家電の回収を開始しました。その後他の自治体からも協力依頼があり、2016年7月から古川南店で、2017年4月から多賀城市内3店舗と加賀野店で、2017年10月から仙台市内4店舗と石巻市内2店舗で回収開始しました。2017年度はそれまでの2市7店舗から5市17店舗に回収拡大しました。回収した金属で2020年東京オリンピックのメダルをつくるプロジェクトがすすんでいます。2017年度の回収量は、9,608kg、前年比247.4%でした。

家庭用使用済み食用油（廃食油）回収

仙台市の廃食油回収事業に協力して仙台市内11店舗で回収し、その廃食油の売却代は、「緑の基金」に寄付しています。名取西店と加賀野店でも各自治体に協力して回収しています。2017年度の回収量は21,367ℓ、前年比111.3%でした。

メンバーの環境活動

「こ～ぷの森」の活動

宮城県内の緑と自然を豊かにするために1992年から始まった"こ～ぷの森"の活動は25年間で県内に11の森をつくってきました。2017年度は「こ～ぷの森吉成山」の2.31ｈａに4,620本、11種類の広葉樹を植林しました。メンバー・職員・協賛企業・地元小学生親子など53人が参加した植林体験会では、ともに生物多様性に富んだ森づくりを行っていくことをアピールしました。



県内11ヶ所 **約89,000本**

宮城県内こ～ぷの森の面積 **58.3ha**

「COOP緑の基金」の活用

アルミ缶や廃食油回収の売却益、メンバーからの募金や協賛企業からのキャンペーン募金などを積み立てた「COOP緑の基金」をもとに"こ～ぷの森"への植林や森の手入れ作業などを行っています。2016年度から5年間、海岸林再生を行っている団体への寄付も始めました。



こ～ぷの森"吉成山植林体験会

くらしの見直し・省エネ

日本生協連が呼びかけた5月分・8月分「わが家の電気・ガス料金しらべ」は宮城県からは5月174件、8月は133件で全国で3番目の回答数になり、東北では電力小売り自由化がすすんでいないことやLPガス料金設定の不透明さなどがわかりました。

地球温暖化や地域環境の問題から、仙台港石炭火力発電所建設に関しての学習会を3か所で開催し、述べ114人の参加でこの問題についての理解を深め、署名活動にもつながりました。6,162筆の署名は「仙台港の石炭火力発電所建設を考える会」に集約し、大きな力になりました。

環境配慮商品普及の取り組み

6月の環境月間を中心に年間を通じて、環境配慮商品の普及の取り組みを57エリア（60企画）で行いました。環境マークの学習や環境配慮商品や「エシカル消費」についてお知らせ活動を行い、商品の利用を通じた環境配慮行動の実践を広げました。

生物多様性をはぐくむ活動

7月22日夏休み親子企画「南三陸の森と水辺を探検しよう！」は40人の参加で『こ～ぷの森貞任山』や南三陸の海辺の観察で森と水環境のつながりを実感し、被災地視察も行い南三陸の今を知る機会になりました。10月14日「秋の森に行ってみよう！こ～ぷの森向大倉山」で行った観察会では間伐作業見学なども行い、生物多様性保全や里山の役割を実感しました。

◆"こ～ぷの森"の活動についての詳細はこちらからご覧になれます。
http://www.miyagi.coop/member/kankyou/coop-woods/01.html

商品事業における環境配慮

環境配慮商品の普及拡大

みやぎ生協は、「顔とくらしの見える産直めぐみ野」商品、地産地消商品、環境配慮商品の普及拡大に取り組んでいます。そのことで低炭素社会、循環型社会、自然との共生（生物多様性）をめざしています。

海のエコラベルMSC認証商品の普及

みやぎ生協はMSC認証を受けた「COOP骨取りさばの味噌煮、みぞれ煮」を普及しています。それは海洋管理協議会（MSC）が、海の資源を枯渇させないように魚種資源と海洋環境の保護や魚業者の生計維持を目指して、持続可能な漁業で獲られた水産物として認証したものです。漁獲量の割当規制、産卵場周辺の禁漁、網目の大きさ規制などに取り組んでいます。



COOP骨取りさばの味噌煮、みぞれ煮

〈環境配慮商品ラベル〉

MEL（マリン・エコ・ラベル）	FSC（森林管理の原則と基準）
www.mel.jp マリン・エコラベル・ジャパン	FSC
有機JAS	**特別栽培農産物**
JAS	
MSC（持続可能な漁業のための原則と基準）	**エコマーク**
CERTIFIED SUSTAINABLE SEAFOOD MSC www.msc.org	

レインフォレスト・アライアンス（認証商品）

レインフォレスト・アライアンスとは

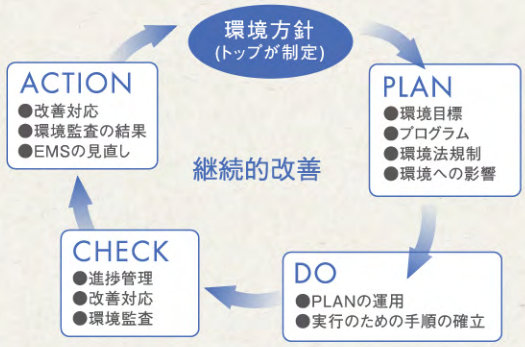
地球環境保全のため、熱帯雨林を維持する目的で1987年に設立された国際的な非営利団体です。地元のパートナー団体と共に農業の持続可能な基準を開発、推進しています。この認証商品は厳しい基準によって環境を保護し、労働者、家族、共同体全体の福利の発展をめざします。



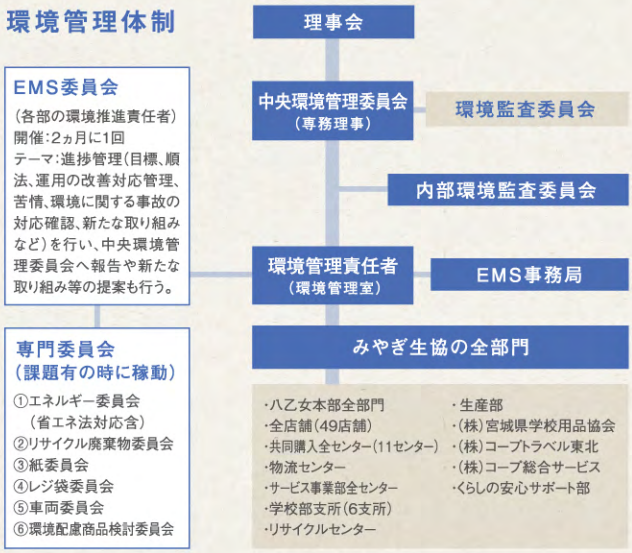
環境マネジメント

PDCAサイクル

みやぎ生協は2013年度にISO14001を返上しましたが、「環境マネジメントシステム（EMS）」の継続は組織にとって有益と考え、継続運用しています。



環境管理体制



環境会計

（1）環境保全の投資コスト額：3億4,204万円（前年度2億9,481万円）
27店舗のバックヤード照明をLEDにしました。8事業所の空調設備を最新の高効率設備に更新しました。共同購入2センターと1店舗に最新型の冷凍・冷蔵設備を導入しました。共同購入中央センターに太陽光発電設備を導入しました。共同購入柴田センターにSVOコージェネレーション発電機を導入しました。

（2）環境保全の費用額：4億3,148万円（前年度4億9,532万円）
①温暖化防止、省エネ、省資源の推進費用、②廃棄物の再資源化推進費用などが前年度より減りました。

（3）環境保全対策に伴う経済効果：4億2,218万円（前年度8,399万円）
①店舗の値引き廃棄ロス額の減少、②リサイクル品有価物の売却収入の増加、③省エネ機器等の導入によるエネルギー使用経費の削減など経済効果がありました。

（4）環境関連の寄付と募金合計：1,374万円（前年度1,559万円）

環境に関する法規制とご意見

（1）環境に関する法規制28項目とその他の基準や協定など8項目あり、すべて適切に管理しました。

（2）環境に関するお申し出は0件、ご意見は24件でした。

主な項目	件数
①リサイクルについて	21件
②再生可能エネルギーについて	2件
③電力小売り事業について	1件

環境監査結果報告

2018年4月14日

外部環境監査

みやぎ生活協同組合
理事長　宮本　弘 様

環境監査委員会
委員長　遠藤　智栄
委　員　大村　泉　高橋　春男
中田　俊彦　福田　幸子
松木　弥恵　湊　加津江

当委員会は、みやぎ生協環境管理規定第14条、同環境監査規定第6条および第7条の規定に基づき、みやぎ生協の環境管理および環境保全活動について、以下の通り環境監査を実施したので報告する。

【環境監査の実施日】
第1回　2017年11月18日(土)　2017年度上期環境監査：書類監査、錦町店視察
第2回　2018年　4月14日(土)　2017年度環境監査：書類監査および総合監査

【評価事項】
1.事業所の電気の購入先を再生可能エネルギー構成比の高い電力に切り替えるなどして、CO_2総排出量を大幅に削減したこと。
2.電気小売事業を開始し、メンバーに再生可能エネルギー構成比の高い電力を利用する機会を提供したこと。
3.新店の錦町店は、環境配慮型で若い世代などの感性に合った店舗であり、温水暖房や木材内装を導入してエネルギーの削減と快適性の向上を両立させたこと。
4.水素エネルギー利活用実証事業に参加して、地域主体の新しいエネルギープロジェクトの仕組みを学ぶ機会を得たこと。
5.めぐみ野商品の学習会、産地見学、推奨活動を繰り返し行うことで、地産地消商品の認知度を高め、着実に供給量を増やしたこと。

【指摘事項】
1.2030年、2050年に向け、長期の脱炭素社会をめざした方針を検討し発信すること。
2.こ～ぷの森の植林活動などメンバーが参加する環境活動の価値を可視化し、発信すること。
3.環境会計の環境保全コストと経済効果の表示方法について見直すこと。
4.コピー紙の使用枚数が継続して増加していることの原因を分析し、改善の検討をすること。
5.水素エネルギー利活用実証事業への参画を踏まえ、具体的な事業可能性を年度毎に検討すること。

以上

内部環境監査

○実施期間：2017年7月14日(金)～2017年8月31日(木)
○監 査 員：主任監査員1人、監査員19人。監査チーム2人1組で編成。
○監査所見：総数25件:内訳は要改善事項21件、＋評価事項4件

総合所見	(1)みやぎ生協の環境マネジメントシステムが適切に運用されている事を確認しました。引き続き実態に即したシステムの整備・運用を行なってください。 (2)環境目的・目標の進捗と運用管理の状況 ①環境目標は、環境管理計画及び進捗管理表等により実施状況が管理されており、有効に運用されていることを確認しました。 ②業務課題を環境目標として設定し取り組んでおり、ISO認証返上後も継続して組織の中に環境マネジメントシステムが維持されています。 (3)運用管理と順法事項の状況 運用管理と順法事項は一部「要改善」事項がありました。 (4)重点監査事項 ①「冷ケースの平台ロードラインをオーバーしている」ことと「冷ケースの冷気吸込口を塞いでいる」ことの「要改善」事項が前年同様に多数ありました。これは冷ケースの電気使用効率を悪くしますし、商品の品温管理上も問題です。店舗運営部と商品部で陳列ルールを再確認して、引き続き店舗職員と目線合わせをしてください。 ②「産業廃棄物保管場所の表示がない」という「要改善」事項は、前年3件から今年1件に減りました。これは順法事項ですので、「要改善」がゼロになるまで改善が求められます。

◆環境に関する取り組みの詳細は下記のURLからご覧ください。http://www.miyagi.coop/member/kankyou/

みやぎ生協の環境活動

再生可能エネルギーの普及


風力発電



木質バイオマス発電


太陽光発電


省エネ設備（冷凍冷蔵設備・空調・LED照明など）



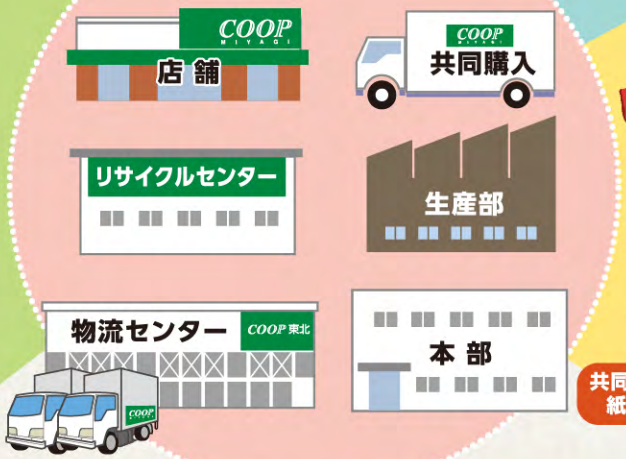

SVO 注③ コージェネレーション発電機


電気自動車



通い箱リライトラベル 注②

CO_2削減





共同購入チラシ・紙パック回収

環境に配慮した地域社会づくり


めぐみ野産地交流・体験会

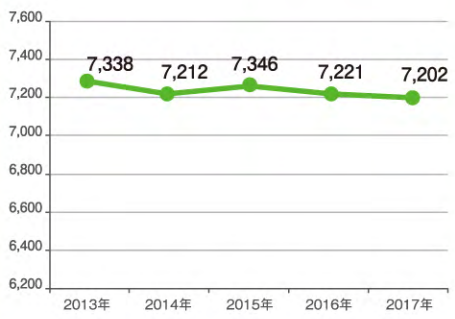

生物多様性保全の活動


こ～ぷの森づくり

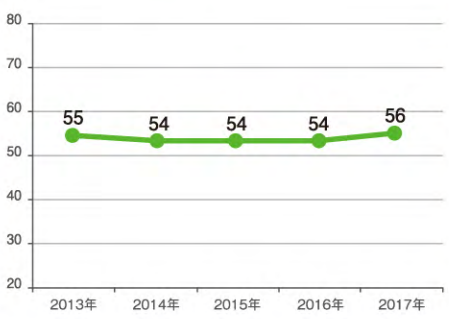

省エネ・くら
省エネクッキング

注①:BDF（バイオディーゼルフューエル）:植物由来の廃食油を化学処理して作られる軽油代替燃料のこと。
注②:通い箱リライトラベル:共同購入の通い箱のラベルを剥がさずに繰り返し印字できるシステム。

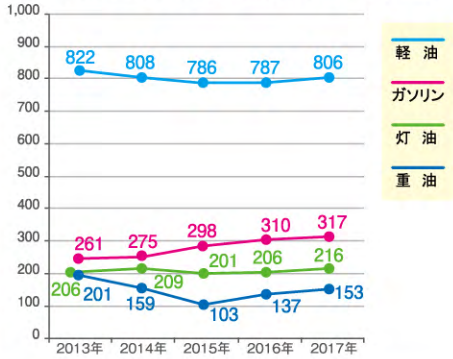
電気使用量（単位:万kWh）



LPG使用量（単位:万m^3）



軽油・ガソリン・灯油・重油使用量（単位:kl）



「めぐみ野」環境配慮商品の普及



※P38の環境配慮商品をご参照下さい。



しの見直し



夏冷房28℃
冬暖房20℃

学習活動

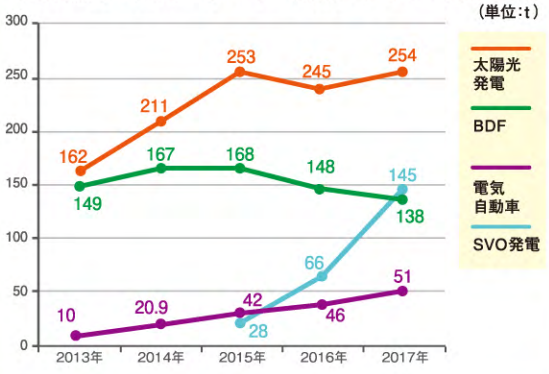


注③:SVO(ストレートベジタブルオイル):植物由来の廃食油を物理的に処理して作られる軽油代替燃料のこと。

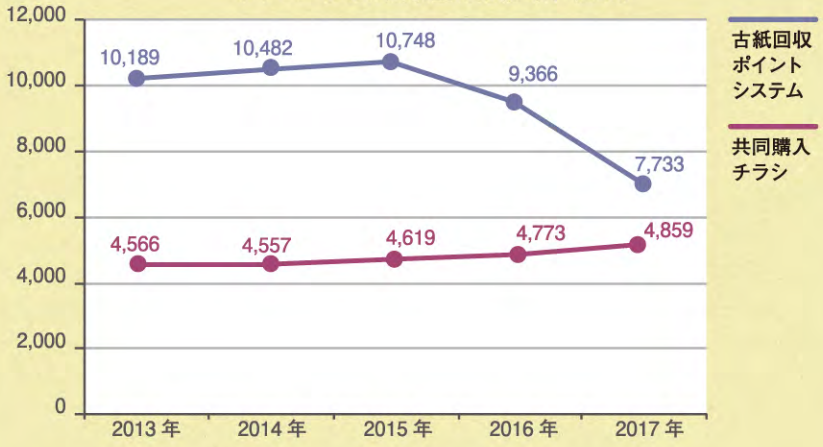
SVOコージェネレーション発電機:SVOを燃料にして電気と熱エネルギーを活用する設備。

化石燃料の代替エネルギー使用によるCO₂削減効果

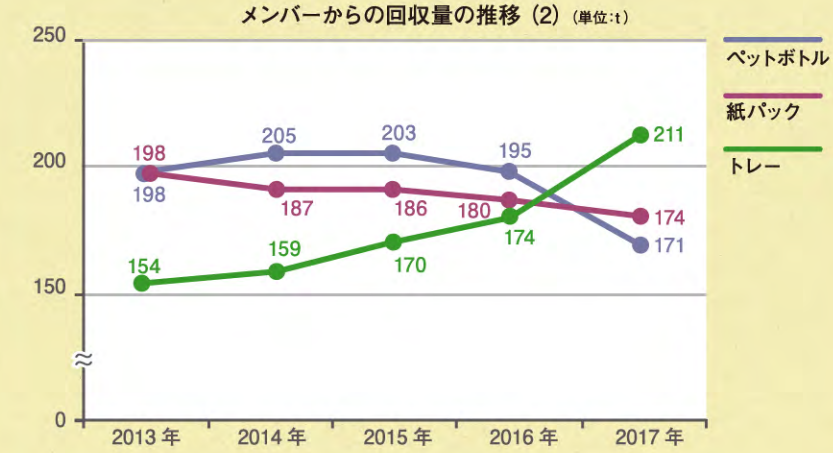
(単位:t)



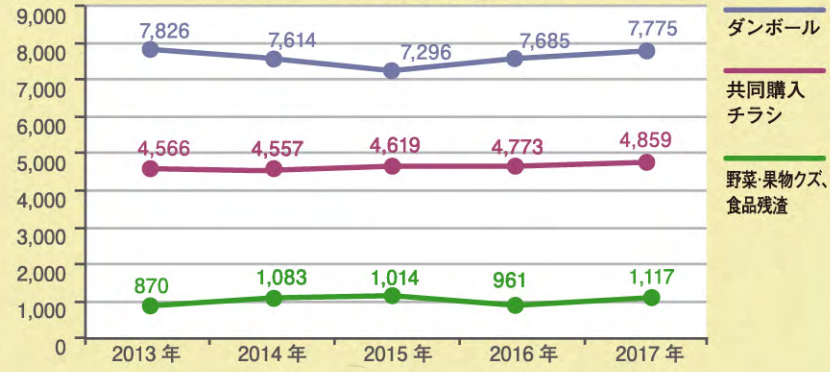
メンバーからの回収量の推移(1) (単位:t)



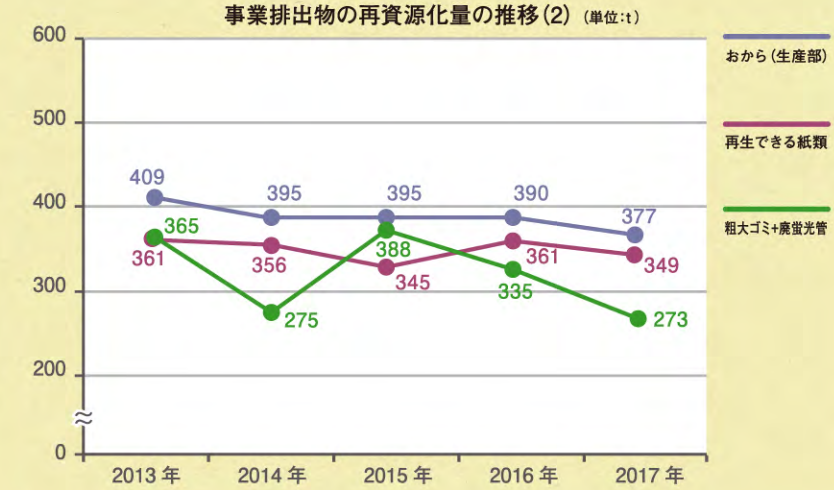
メンバーからの回収量の推移(2) (単位:t)



事業排出物の再資源化量の推移(1) (単位:t)



事業排出物の再資源化量の推移(2) (単位:t)





© みやぎ生協

こやぎの
みやぎちゃん

みやぎ生活協同組合

CSR Report

2017年度
社会・事業・環境活動についての報告書

発行日：2018年5月18日
発　行：みやぎ生活協同組合
〒981-3194　宮城県仙台市泉区八乙女4-2-2

お問い合わせ先
○機関運営部広報課……TEL.022-771-1590　FAX.022-773-1821
○環境活動に関する詳細は環境管理室……TEL.022-771-2461

HPアドレス　みやぎ生活協同組合　http://www.miyagi.coop/
本報告書はホームページに掲載、ダウンロードできます。